

駿河まなびのまちづくりグランドデザイン

～まなびに親しみ 文化を創り 心豊かに暮らす～

令和3年3月

静岡市企画課



目次

1.	はじめに	01
2.	地区の動向	03
3.	エリアの目指す姿とまちづくりの方針	06
4.	エリアのまちづくりの考え方	16
5.	拠点のまちづくり	17
6.	将来の発展が見込まれる地区	19
7.	ランドデザインの実現化に向けた実施体制	20
	<用語集> (用語に※が付いているもの)	21
	<資料編>	22

1 はじめに

静岡市5大構想「世界に存在感を示す3つの都心づくり」のひとつである「教育文化の拠点づくり」は、質の高い教育を受けることのできる機会を創出するとともに、副都心としての拠点整備を進めてきた東静岡地区と、教育機関等の立地を活かし文教エリアづくりを進めてきた草薙地区を、教育文化の薫りが漂い、多くの若者が集まり、交流が生まれる拠点として、新たな賑わい、地域活性化を実現することを目指しています。

静岡・清水2つの都心の中間に位置する「東静岡・草薙地区」には、静岡県の文化施設である「グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）」、多くの若者や親子連れが訪れる「東静岡アート＆スポーツ／ヒロバ」や、常葉大学あるいは静岡県立大学といった高等教育機関など、「まなび」に関する地域資源が多く集積しています。

東静岡地区には駅北口の市有地や、新県立中央図書館の整備に向けて検討が進められている駅南口の県有地など、今後の更なる機能の充実が期待される一方、草薙地区では、地域の賑わいづくりを地元自治会や商店会が主体となって進めていこうとする地域団体「一般社団法人草薙カルテッド（都市再生推進法人：平成30年6月指定）」がまちづくりを進めています。

また、大谷・小鹿地区では、土地区画整理事業が推進されるとともに、令和元年の日本平久能山スマートインターチェンジ開通により、日本平周辺エリアとしての連携が期待されています。

このようなことから、本市では、これらの地区で「まなびの拠点」として相応しいまちづくりを進め、市域全体の持続的な発展をけん引していきたいとの考えから、およそ20年先のまちの将来像を示す『駿河まなびのまちづくりランドデザイン』を策定しました。



- ▶ 対象となる東静岡・草薙地区は、日本平の山麓に広がり、静岡都心・清水都心の2つの都市の中間に位置しています。
- ▶ また、東西自動車交通の大動脈である東名高速道路に、新たに「日本平久能山スマートIC」が開通し、大谷・小鹿地区では土地区画整理事業が進んでいます。



※本グランドデザインにおける「まなび」とは

様々な
主体が

- ・一人ひとり
- ・市民
- ・組織
- ・企業 など

それぞれの
目的の
ために

- ・生きていく
- ・成長
- ・活躍
- ・自己実現 など

多様な
経験を
する

- ・体験
- ・探求
- ・研究
- ・創造
- ・連携
- ・協業 など

2 地区の動向

<上位関連計画による東静岡・草薙地区等の位置づけ>

○東静岡・草薙地区及び大谷・小鹿地区は、市の上位計画でまちづくりの拠点に位置づけられています。

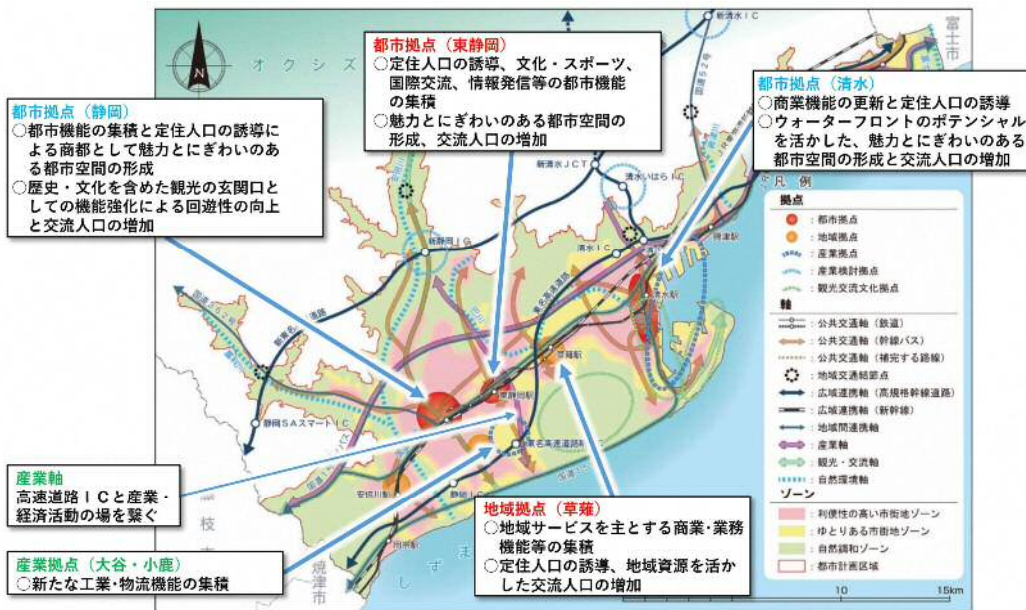
第3次静岡市総合計画

5大構想の位置づけ

世界水準の都市を目指す
「教育文化の拠点」

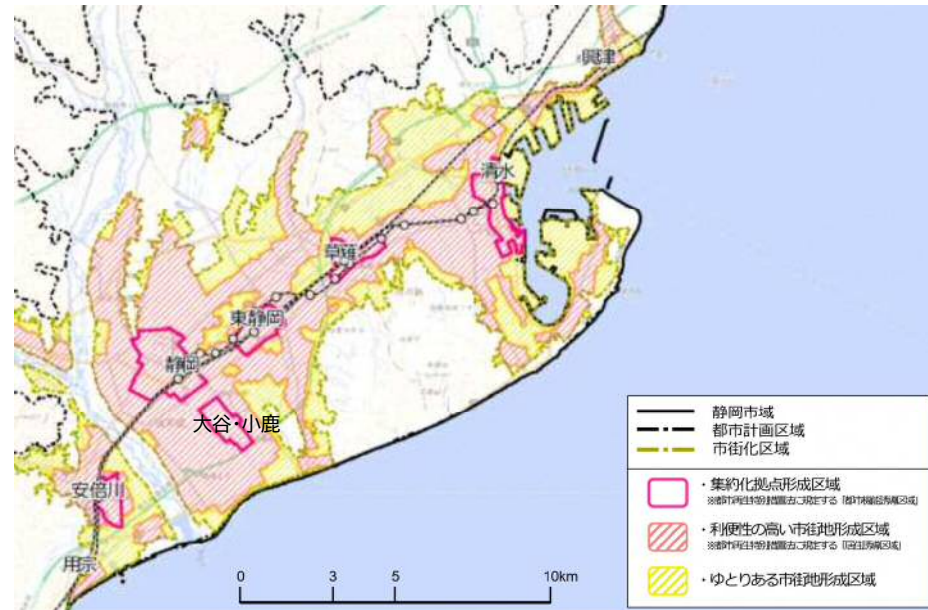
	都市計画マスタープラン	立地適正化計画
東静岡駅 周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 定住人口の誘導、文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の都市機能の集積 ◆ 魅力とにぎわいのある都市空間の形成、交流人口の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教育・文化・スポーツ、国際交流、情報発信等の機能の強化 ◆ 商業・業務機能の強化 ◆ 子育て環境等、周辺居住者の生活利便性の充実
草薙駅 周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域サービスを主とする商業・業務機能等の集積 ◆ 定住人口の誘導、地域資源を活かした交流人口の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「文教エリア」としてのブランド力向上に向けた、教育・文化機能の強化 ◆ 学生も含めた若い世代が活躍できる環境の向上
大谷・小鹿 地区	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 産業活動を主体とした機能の集積に向けた、工業・物流・交流・居住機能等の複合的な立地 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 企業立地による雇用創出

静岡市都市計画マスタープラン <計画期間：平成28～令和17年度>



《集約連携型都市構造図》

静岡市立地適正化計画 <目標年次：令和17年度>

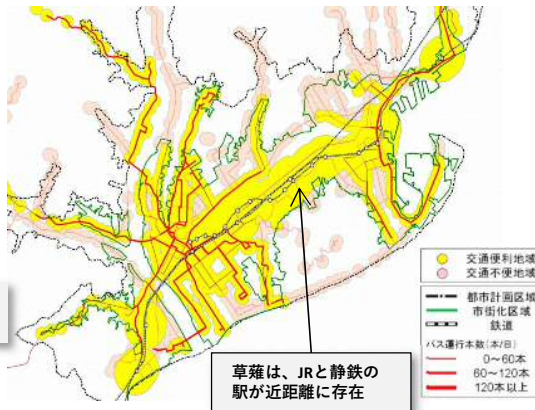
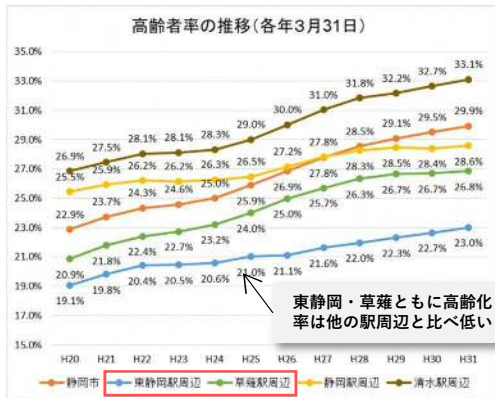


《利便性の高い市街地形成区域・ゆとりある市街地形成区域》

2 地区の動向

<人口の推移等>

- 市全体の人口は減少していますが、東静岡駅及び草薙駅周辺の人口は増加しています。
- 東静岡駅及び草薙駅周辺は、比較的、年少人口率が高く、高齢者率は低く推移しています。
- 東静岡・草薙地区は交通結節点となっており、駅1 km圏内の人口増加もあり、駅利用者数は増加傾向にあります。



資料：静岡市の人口・世帯 (住民基本台帳の過去データ)

資料：「H22国土数値情報」国土交通省より作成

◆東静岡・草薙地区の歴史

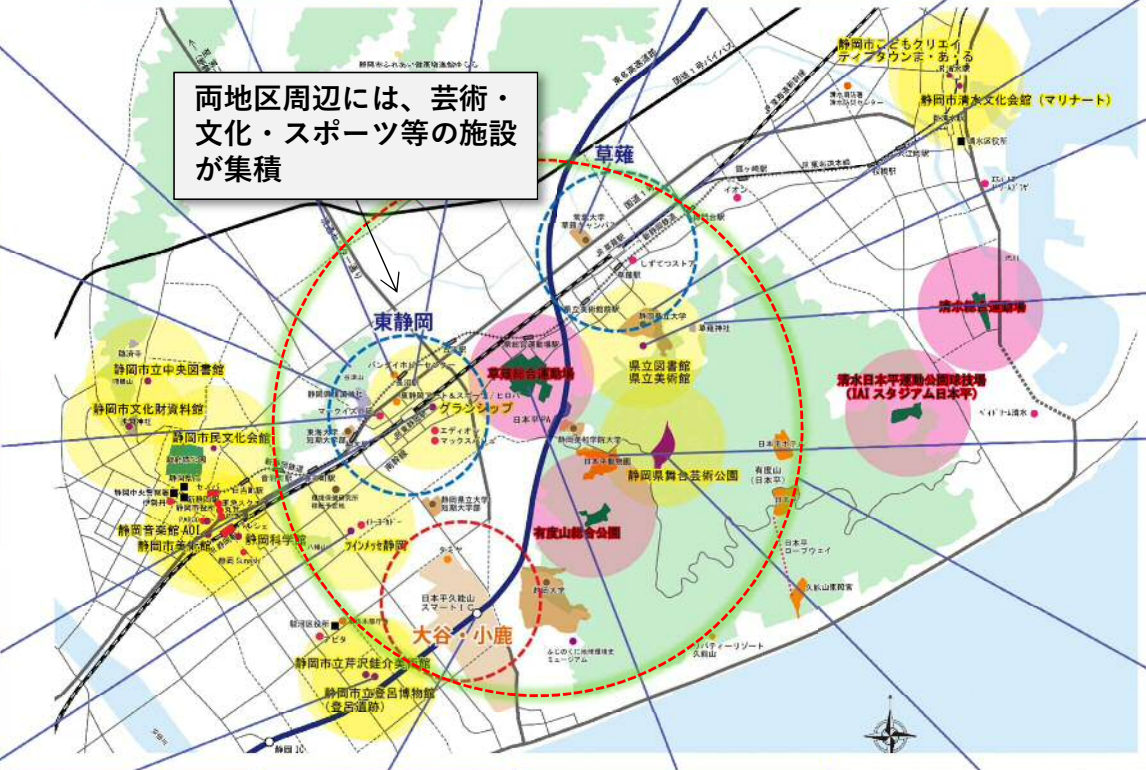
	東静岡	草 薙
平安江戸	◆東海道の整備 ✓江戸時代に入り東海道が整備され、静岡と清水を結ぶ交通の東西軸が形成。	◆草薙神社の奉還 ✓平安時代に、草薙神社本殿が現在の位置に奉還され、境内には樹齢1,000年以上といわれる楠の巨木があり、市の天然記念物となっている。
大正明治	M17 静岡県護国神社が静岡市北番町より移転 M41 静岡鉄道長沼駅開業	M41 静岡鉄道草薙駅の開業 T15 東海道本線草薙駅の開設 (草薙信号場が草薙駅に昇格)
昭和	S37 静岡操車場開設 S42 操車場を駅に格上げし東静岡駅として開業 S62 静岡県立大学が開学 (小鹿キャンパス)	S2 日本平が「日本百景」に選定 ※S7に県の名勝に指定され、S26に県立公園となる S38 草薙駅 (旧国鉄) 南側で静岡清土地地区画整理事業が実施される (H5完了) S40 静岡銀行本部が草薙に移転 S45 県立中央図書館が移転 S48 草薙駅 (旧国鉄) が完成 S61 県立美術館開館 S62 静岡県立大学が開学 (草薙キャンパス)
平成	H5 東静岡駅周辺土地区画整理事業「事業計画」決定 H10 JR東静岡駅・南北自由通路・南北駅前広場完成 H11 静岡県コンベンションアーツセンター (グランシップ) 開館 H17 バンダイホビーセンター移転 H20 静岡県立科学技術高等学校開校 H25 東静岡南北線跨線橋 (東静岡大橋) 完成	●草薙駅及び南北自由通路の南口 H27 草薙駅南口再開発ビル、静岡銀行本部棟オープン H28 JR草薙駅橋上駅舎及び南北自由通路開設 H30 常葉大学の一部学部を静岡草薙キャンパスに移転 H30 草薙駅北口駅前広場が完成
令和	R元 日本平久能山スマートIC開通	R元 草薙駅南口駅前広場が完成

2 地区の動向

<地区の資源・施設>

- 東静岡・草薙地区周辺には、芸術・文化・スポーツ施設の集積がみられます。
- 大谷・小鹿地区では、日本平久能山スマートICが開通し、土地区画整理事業が進められています。

- 凡 例
- 文化施設周辺エリア
 - 行政施設
 - スポーツ施設周辺エリア
 - 商業施設
 - 文化発信施設(図書館、美術館、劇場等)
 - 教育施設(大学、短大)
 - 公園、スポーツ関連施設(総合運動場等)
 - 観光関連施設



開設年	施設
昭和45年	県立中央図書館移転
昭和47年	静岡市立登呂博物館(平成22年リニューアルOP)
昭和50年	静岡市文化財資料館
昭和53年	静岡市民文化会館
昭和56年	静岡市立 芹沢銈介美術館
昭和57年	ツインメッセ静岡
昭和59年	静岡市立図書館(新築移転)
昭和61年	県立美術館
平成4年	静岡市立 清水中央図書館
平成6年	静岡市東海道広重美術館
平成7年	静岡音楽館AOI、中助助文学記念館
平成9年	静岡県舞台芸術公園
平成11年	グランシップ(静岡県コンベンションアーツセンター)
平成16年	静岡科学館る・くる
平成22年	静岡市美術館
平成24年	静岡市清水文化会館 マリナート
平成25年	静岡市子どもクリエイティブタウンま・あ・る

3 エリアの目指す姿とまちづくりの方針

<東静岡・草薙地区の位置づけとまちづくりの理念・方針の設定>

第3次静岡市総合計画

5大構想の位置づけ

世界水準の都市を目指す「教育文化の拠点づくり」

都市計画マスタープラン・立地適正化計画の位置づけ

<都市拠点>

- 定住人口の誘導、教育、文化、スポーツ、国際交流等の情報発信機能の集積・強化
- 魅力とにぎわいのある都市空間の形成、交流人口の増加
- 商業・業務機能等の強化
- 子育て環境等、周辺居住者の生活利便性の充実

東静岡駅周辺地区

<地域拠点>

- 地域サービスを主とする商業・業務機能等の集積
- 定住人口の誘導、地域資源を活かした交流人口の増加
- 「文教エリア」としてのブランド力向上に向けた、教育・文化機能の強化
- 学生も含めた若い世代が活躍できる環境の向上

草薙駅周辺地区

	主な検討会意見	SWOT分析
I	<ul style="list-style-type: none"> リカレント教育※、生涯学習という考え方が重要 まなびを通じて多様な人が集まる仕掛けが重要 まなびのまちとして若者と地域の交流を深めることが重要 	<p>強み・大学等教育機関の集積、草薙カルテッドの活動</p> <p>弱み・住民主体のまちづくり活動が顕在化していない（東静岡）</p> <p>機会・常葉大学の誕生、学生の地域の中の居場所の創出</p> <p>脅威・人口構成の変化による住民相互の交流機会の減少</p>
II	<ul style="list-style-type: none"> 人が集まるためには可能性、手応えが重要 インフラとして、ICT※、情報通信基盤の整備が重要 	<p>強み・古さと新しさの同居（東海道と新幹線・東名）</p> <p>弱み・大学との協働事業の不足</p> <p>機会・教育機関集積による学術・研究拠点形成の可能性</p> <p>脅威・経済活動の縮小</p>
III	<ul style="list-style-type: none"> 高度なエンターテインメント性の追求が重要 スポーツなどはコンテンツを育てて裾野を広げて行くことが重要 	<p>強み・草薙球場などの立地</p> <p>弱み・若者が多いが、魅力的な場所が少ない</p> <p>機会・スポーツ施設が多く、各種大会で人が集まる</p> <p>脅威・静岡・清水都心との近接に伴う存在感の希薄化</p>
IV	<ul style="list-style-type: none"> SPACは他の都市にはない存在で、地区の強みである 文化の丘（ムセイオン）、文教施設の集積を活かすことが重要 	<p>強み・「劇場のあるまち」というブランド価値</p> <p>弱み・文化施設同士の一体感の不足</p> <p>機会・グランシップ、ツインメッセでのイベント開催</p> <p>脅威・保守的な市民性</p>
V	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動との両輪により、持続的かつ循環する社会とすることが重要 東静岡と草薙の連携には、使いやすいモビリティサービスが必要 	<p>強み・新スマートICの開通等、市外からのアクセス良好</p> <p>弱み・鉄道、道路で分断した南北の一体感が不足</p> <p>機会・日本平久能山スマートIC周辺の産業集積</p> <p>脅威・交通/物流の変化による渋滞の発生</p>
VI	<ul style="list-style-type: none"> 他の地域から関心を持たれる新しいライフスタイルを実践できることが重要 住み続けられる暮らしの基準として安全安心、防災の観点が重要 	<p>強み・富士山の眺望、日本平などの景観と自然環境</p> <p>弱み・駅から離れた場所の交通の利便性不足（草薙）</p> <p>機会・テレワーク・在宅勤務の普及</p> <p>脅威・平日不在による災害時の互助への不安</p>
VII	<ul style="list-style-type: none"> 多様な価値観を持った人が暮らしやすいことが重要 文化を盛んにする、多様性を認められる社会とすることが重要 	<p>強み・新たなまちづくりの担い手の存在</p> <p>弱み・世代間交流の希薄化（新旧住民）</p> <p>機会・若年人口が多い・大学生が集まる</p> <p>脅威・少子高齢化</p>

まちづくりの理念

まなびに親しみ、文化を創り、心豊かに暮らす

まちづくりの方針

- 【教育機関等の集積を活用した誰もが生涯にわたって学べる機会の創出】
- 【オープンイノベーション※による付加価値のある技術やサービス等の創出】
- 【スポーツの持つ多面的な価値が醸成される拠点の形成】
- 【市民が身近に親しむことができ、誇りに感じる地域に根差した芸術文化の創造】
- 【地域の活力を向上させるための拠点性の強化】
- 【快適で安全安心な暮らしのための環境づくり】
- 【多様な人々が共に暮らせるよう、まちをよくするために活動する人を、応援できる環境づくり】

○検討会意見：ランドデザインの作成にあたり、まちづくり、文化・芸術、教育、スポーツの各分野の専門家、市民で構成された検討会の意見より抽出

●※印の用語の意味は21ページに掲載

3 エリアの目指す姿とまちづくりの方針

<まちづくりの理念>

まなびに親しみ、文化を創り、心豊かに暮らす

<エリアの目指す姿>

市域全体の「まなび」をけん引するまち（まなび続けることができる環境）

- 教育機関等の集積を活かし、生涯を通じて、心の豊かさや生きがいのためにまなび続けることができる。
- 誰もがまなびや経験、感性などに基づくクリエイティブな思考を発揮し、自己実現や自身の成長を図るために、主体的、能動的に取り組むことができる。
- それぞれのまなびを大切に、新しいことにチャレンジする人を応援できる。
- 教育機関や企業などが相互に連携し、オープンイノベーションによって付加価値のある技術やサービス等が創出される。

魅力ある文化的な都市機能の充実したまち（魅力ある文化の創造）

- 人々が誇りに思い、楽しむことのできる文化が、創造され、育まれ、継承される。
- デジタル、グリーンなどの進展に対応し、国際性豊かな、未来を見つめた都市空間を形成する。
- 教育、スポーツ、芸術、国際交流、情報発信など満足感の高い機能が集積され、多様な体験ができる。
- 魅力ある文化的な都市機能の集積から生まれる効果が周辺に波及することによって、経済活力の高いまちが形成される。

多様性がある快適な暮らしを实践できるまち（多様性がある快適な暮らし）

- 地域と密着した活動などを通じて、実践的なまちづくりのスキルが身につき、自らが地域を育てていくことができる。
- 静岡都心・清水都心との近接性や身近な自然、歴史などを活かした、多様な生活や仕事のスタイルが実践できる。
- 防災・防犯対策などが充実した安全安心な居住環境が形成される。
- 多世代・多文化の交流など、多様な価値観を持った人々が共存した地域社会が形成される。

3 エリアの目指す姿とまちづくりの方針

<エリアの目指す姿>

<まちづくりの方針>

市域全体の
「まなび」を
けん引するまち

1 【教育機関等の集積を活用した誰もが生涯にわたって学べる機会の創出】

➤ 心の豊かさや生きがいのために、生涯にわたって学び続けることができるリカレント教育※や生涯学習などの取組、誰もが参加できるプラットフォーム※の構築など、学べる機会づくりを進める。

2 【オープンイノベーションによる付加価値のある技術やサービス等の創出】

➤ 静岡大学、静岡県立大学、常葉大学などの教育機関や市環境保健研究所、市内企業などが相互に連携し、オープンイノベーションによる研究開発や創業などを進め、新たな付加価値のある技術・サービス等を創出する。

3 【スポーツの持つ多面的な価値が醸成される拠点の形成】

➤ スポーツの3要素である「見る」、「する」、「支える」の視点で、個人の健康の増進はもとより、スポーツ観戦による体験やスポーツを支える地域活動を進め、地域の一体感や活力を醸成し、エリアの価値を高める。

魅力ある文化的
な都市機能の
充実したまち

4 【市民が身近に親しむことができ、誇りに感じる地域に根差した芸術文化の創造】

➤ SPAC（静岡県舞台芸術センター）やグランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）など日本平周辺で培われてきた芸術文化の持つ魅力や創造性を「まちは劇場」としての取組に活かすことにより、市民が日常に芸術文化を感じ、ゆとりや潤い、刺激を楽しむことができるまちづくりを進める。

5 【地域の活力を向上させるための拠点性の強化】

➤ 東静岡地区と草薙地区に加え、将来の発展が見込まれる大谷・小鹿地区を連携させることで、静岡都心・清水都心に挟まれた日本平周辺の広域的なエリアの魅力や経済活力を向上させる。

多様性がある
快適な暮らしを
実践できるまち

6 【快適で安全安心な暮らしのための環境づくり】

➤ 多様な世代が快適な生活を営む居住環境整備を推進するとともに、自然と共生した安全安心な生活を実現する。

7 【多様な人々が共に暮らせるよう、まちをよくするために活動する人を、応援できる環境づくり】

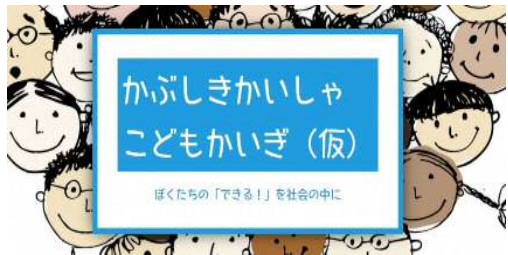
➤ 多世代・多文化の交流の促進や、暮らし辛さを感じている人への支援など、人々が「暮らすまち」をよくするために活動する人が活動しやすい環境づくりを推進し、そこに産学官民が関わりネットワーク化していくことで、誰もが心豊かに生活できるまちづくりを実現する。

まちづくりの方針1

【教育機関等の集積を活用した誰もが生涯にわたって学べる機会の創出】

心の豊かさや生きがいのために、生涯にわたって学び続けることができるリカレント教育や生涯学習などの取組、誰もが参加できるプラットフォームの構築など、学べる機会づくりを進める。

- 教育機関が集積する東静岡地区、草薙地区では、地域に開かれた学びの場として、積極的な活動が行われています。
- 一方、学生も校内に留まらず、校外において実践的な「まなび」に取り組むことが進められています。
- 草薙地区では、地域主体の取組として、「草薙カルテッド」の活動が行われており、学生と連携した取組が進んでいます。
- こうした「まなびの機会」が充実している環境を活かし、幅広い人々が主体的、能動的に学ぶことができる取組を進め、東静岡地区、草薙地区だけでなく、市全体の「まなび」の拠点としての機能を高めます。



< (株) こども会議 (仮) >

- ✓ こども達の「できる！」を社会の中に、をコンセプトに異業種の大人たちがこども達と一緒に、その力を地域・企業・国という社会全体に波及させていく、一緒に未来を作ることをビジョンに活動。

出典：(株)こども会議(仮)HP



< トコプロ「常葉大学」 >

- ✓ トコハの学生たちが参加するプロジェクトの総称。企業とコラボをしたり、地域を活性化したり、研究もその一つ。半数以上の学生がプロジェクトに参加している。
- ✓ 写真は、地元野菜を利用したクッキーを開発 出典：常葉大学HP

方針に基づく取組案

◆ 誰もが「まなび」に親しむ機会の提供

- 大学と連携した知の拠点形成
- 新県立中央図書館における「まなび」・交流・創造の機能（東静岡）
- 大学等との連携によるリカレント教育・生涯学習
- 子どもや障害者、外国人など誰もがまちづくりなどについてまなび、考えられるプラットフォームの構築
- 有度山、谷津山など、豊かな自然を生かした「まなび」の実施
- 大学、高校、小中学校等の教育機関、企業・団体、地域間での連携や交流による「まなび」の実施



< 福岡県北九州市 まなびとESDステーション >

- ✓ 市内の全10大学の連携により誕生した地域実践活動拠点。
- ✓ 持続可能なまちづくりを担う次世代を育む人材育成 (ESD) のため、学生を中心に、地域や企業など、まちの人々が協働で様々なプロジェクト活動を実践。

出典：北九州市HP

まちづくりの方針2

【オープンイノベーションによる付加価値のある技術やサービス等の創出】

静岡大学、静岡県立大学、常葉大学などの教育機関や市環境保健研究所、市内企業などが相互に連携し、オープンイノベーションによる研究開発や創業などを進め、新たな付加価値のある技術・サービス等を創出する。

- 東静岡地区・草薙地区周辺は、静岡大学、静岡県立大学や常葉大学などのキャンパスが集積し、市はふじのくに地域・大学コンソーシアムを通じた連携のほか、これらの大学と包括連携協定を締結しており、引き続き、相互に連携・協力して地域の課題の解決を図っていきます。
- 加えて、今後、静岡大学・浜松医科大学の法人統合により設立が予定されている「静岡国立大学機構（仮称）」とも連携し、多くの若者を引き付ける魅力ある学びの環境づくりや、多様で、総合的な研究体制の提供による産学連携の更なる推進を図っていきます。
- 行政、企業、大学などが連携し、研究開発、創業を促進することで、様々な分野で新たな価値を持ったサービスが提供できるような体制づくりを目指します。
- 情報通信技術（ICT）などの発展を、産業活動や社会生活に取り入れることで、質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会「Society5.0※」の実現が、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されています。
- まちづくりに際しても、新たなテクノロジーを有効に活用し、多様化する生活スタイルやコミュニティの形成など、これからのニーズにも対応していく「次世代のまちづくり」が求められています。

方針に基づく取組案

- ◆ 次世代技術を活用した新しいサービスの提供
 - ICTなどの新技術を活用した周辺企業や大学などとの連携による研究開発
- ◆ ICTを活用した実証実験の実践
 - 行政、企業、大学などが相互に連携した実証実験
 - 統合型プラットフォームの整備・運営（芸術・文化施設情報、健康管理、交通情報、混雑状況等のリアルタイムの発信）
 - デジタルサイネージ（電子看板）による情報発信（多言語情報、交通・イベント情報）
- ◆ 学生やセカンドキャリアなどの創業支援
 - ビジネスプランコンテストの実施や起業家支援体制の促進
 - 地域課題解決に対応したコミュニティビジネスなどの創業支援



<近畿大学×UHA味覚糖 産学連携就業体験プログラム>

- ✓ 産学連携ラボ「KISS LABO」を立ち上げ、その取り組みとして就業体験プログラムを実施。
- ✓ このプログラムでは、近畿大学生がお菓子の新商品を企画して、UHA味覚糖代表取締役社長をはじめとする審査員の前でプレゼンテーションを行い、優秀作に選ばれた企画が実際に商品化される。 出典：近畿大学HP



<市環境保健研究所×市内大学による研究開発>



<実証実験：次世代型交通柏の葉キャンパス>

出典：柏の葉キャンパスHP

まちづくりの方針3

【スポーツの持つ多面的な価値が醸成される拠点の形成】

スポーツの3要素である「見る」、「する」、「支える」の視点で、個人の健康の増進はもとより、スポーツ観戦による体験やスポーツを支える地域活動を進め、地域の一体感や活力を醸成し、エリアの価値を高める。

- スポーツは、自らが行うことによる心身の健康増進に加え、見て楽しんだり、支えることによる連帯感の共有などの効果があります。
- また、地域に根差したスポーツチームは、市民の「心の公共財」となり、「まちのシンボル」となります。
- 東静岡地区・草薙地区には、東静岡アート&スポーツ/ヒロバ、草薙総合運動場などのスポーツ施設があり、若者も含め多くの地域住民の交流の場となっています。
- スポーツを「見る」、「する」、「支える」という3つの要素を活かしたまちづくりを進め、エリアの価値を高めます。

方針に基づく取組案

- ◆ 「見る」スポーツの推進
 - 民間主体によるスポーツやコンサートなどのエンターテインメントに利用できる集客力の高い機能を持った拠点の創出
- ◆ 「する」スポーツの推進
 - 公園などのオープンスペースを活用したスポーツや健康づくりのイベント・スクールの開催
 - ランニングコースの設置などによる気軽にスポーツを体験できる環境の整備
- ◆ 「支える」スポーツの推進
 - 地域が主体となった、様々な地域スポーツチームやプロスポーツチームなどに対する協力・支援
 - スポーツ関連企業を呼び込むエリアづくり
 - スポーツ関連企業との連携による、地域と一体となった取組の実施

スポーツを通じた健康づくり



草薙総合運動場
周辺スポーツ施設との連携
出典：静岡県草薙総合運動場HP

スポーツを通じた交流



出典：THEBAYSHP

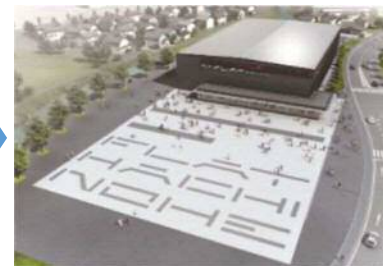


<パルちゃんクラブ（清水エスパルス運営ボランティア）>

<THE BAYS（ザ・ベイス）> 出典：エスパルスHP

- ✓ 横浜DeNAベイスターズの提唱する横浜スポーツタウン構想の新たな取り組みを発信する拠点。Sport×Creativeをテーマとして、新たなライフスタイルや産業を生み出していくことで、横浜のまち全体に賑わいを創り出している。

民間ノウハウを活用したスポーツ拠点



<フラット八戸>

- ✓ 様々なアリーナスポーツやイベントを観て楽しむことができるエンターテインメント型の多目的アリーナ。学校教育や、市民利用など、官民連携の新たなスポーツ施設
出典：フラット八戸HP



<櫛ルネサンス>

- ✓ 自治体と連携した、職場や地域の健康づくり支援事業。
出典：櫛ルネサンスHP

スポーツ
関連企業
との連携

まちづくりの方針4

【市民が身近に親しむことができ、誇りに感じる地域に根差した芸術文化の創造】

SPAC（静岡県舞台芸術センター）やグランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）など日本平周辺で培われてきた芸術文化の持つ魅力や創造性を「まちが劇場」としての取組に活かすことにより、市民が日常に芸術文化を感じ、ゆとりや潤い、刺激を楽しむことができるまちづくりを進める。

- 市では、地域に根付いた大道芸や演劇、音楽などの芸術文化等を活かして、まち全体が劇場のように365日わくわくドキドキがあふれる「まちは劇場」の取組を進めています。
- 東静岡地区、草薙地区には、グランシップや新県立中央図書館のほか、日本平の自然に囲まれた県立美術館、舞台芸術公園などの文教施設が立地するとともに、国内外で高い評価を受けているSPACがこのエリアを拠点として活動しています。
- これら日本平周辺に集積する芸術文化資源やエリア内に点在するオープンスペースを活かして、「まちは劇場」が目指す「市民が気軽に芸術文化を楽しむことができるまちづくり」を推進していきます。
- こうした取組を通じ、芸術文化が地域に根付いていくことによって、シビックプライド※が醸成され、まちの持続的な発展に繋がっていきます。



出典：県立静岡大学HP

<ムセイオン静岡>

- ✓ 草薙や東静岡・日本平エリアの文化関連機関が、自主協働プログラムとして文化・芸術・教育を学ぶ場を提供し、文化を発信する活動をしている。

方針に基づく取組案

◆ 集客力のあるイベントなどの開催

- グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）、県立美術館、新県立中央図書館、舞台芸術公園などと連携した芸術文化イベントの開催

◆ 屋外空間でのイベントなどの開催

- 公園、街路空間などまちなかのオープンスペースを一体的に活用したイベントの開催

◆ エンターテインメント性を演出する取組

- まちかどや様々な場所を活用した芸術文化を感じられる演出
- ライトアップなど夜景の演出とナイトイベント（夜市など）の開催

◆ 芸術文化を通じた関連産業の振興

- SPAC（静岡県舞台芸術センター）に代表されるアーティストやクリエイターなどの創造的な人材と企業・地域との連携による新たなビジネス機会の創出



<国際舞台芸術祭 フィスティバル/トーキョー>

- ✓ 海外の作品や、公園で開催する大規模イベント、カフェや屋外などまちなかで実施する話題性・意外性のある公演、市民参加型イベントなどを実施。出典：豊島区HP



<関内外OPEN! 8>

- ✓ アートを楽しむ街なかフェス。横浜エリアの関内駅を中心に点在するスタジオを回遊しながら、普段は入れない「ものづくり」の創作現場を訪ねて作品を見たり、ワークショップやトークイベントに参加したりする体験型のイベント。出典：創造都市横浜HP

まちづくりの方針5

【地域の活力を向上させるための拠点性の強化】

東静岡地区と草薙地区に加え、将来の発展が見込まれる大谷・小鹿地区を連携させることで、静岡都心・清水都心に挟まれた日本平周辺の広域的なエリアの魅力や経済活力を向上させる。

- 東静岡地区では、グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）の文化・芸術機能のほか、駅周辺の公有地を活かして、更なる文化的な機能の充実が期待されています。
- 草薙地区では、閑静な住宅街や商店街など日常生活に必要な機能がコンパクトに集積しているほか、「草薙カルテッド」などによる地域に根付いたまちづくりが進められています。
- また、大谷・小鹿地区は、スマートICの開通や周辺道路の整備により、工業・物流や交流エリアとして将来の発展が見込まれています。
- 静岡都心・清水都心に挟まれた本エリアにおいては、これら3つの地区での特徴を磨いていくだけではなく、連携を進め、日本平周辺エリアとしての広域的な魅力や機能の充実を強みとして活かしていくことが重要となります。
- このため、東静岡、草薙、大谷・小鹿の3つの地区のネットワークの強化を図り、来訪者が、各地区の施設内や地区内だけで活動するのではなく、エリア全体を回遊するように誘導することにより、地域の文化と経済の活性化を図ります。



<3つの地区の連携イメージ>

- ✓ 3つの地区を結ぶエリアには、教育、文化・芸術、スポーツなど共通する施設が点在しており、今後も充実していくことが考えられる。このエリア全体の強みを活かし、連携していくことで、各地区の拠点性を強化していく。

方針に基づく取組案

- ◆ 各地区の機能強化による経済活力の向上促進
 - 東静岡地区の市有地及び県有地の利活用を進め、新たな機能を創出（東静岡）
 - 「静岡」をアピールするフロント（前線）機能の創出（大谷・小鹿）
- ◆ 幅広い交通手段による回遊性づくり
 - ICTを活用したMaaS ※（新技術を活用した新しい移動サービスなどの概念）などの交通手段の検討
- ◆ 各地区へのアクセス強化
 - 新東名新静岡ICから東名日本平久能山スマートICをつなぐ、静岡市南北を横断する道路環境を整備



<パーソナルモビリティ>

- ✓ まちなかでの近距離移動を想定した1～2乗りの小型電動コンセプトカーなどを指す次世代自動車の概念。出典：TOYOTA HP



<健康・スポーツ・教育といった概念に基づく「今治（地域）らしさ」をスタジアムやエリア機能として整備>

出典：スタジアム・アリーナ改革ガイドブックH30.12スポーツ庁・経済産業省



<大谷・小鹿地区まちづくりグランドデザイン>

まちづくりの方針6

【快適で安全安心な暮らしのための環境づくり】

多様な世代が快適な生活を営む居住環境整備を推進するとともに、自然と共生した安全安心な生活を実現する。

- 東静岡地区、草薙地区は、静岡都心・清水都心から鉄道で約10分の位置にあり、静岡市街地の都市機能、清水港のウォーターフロント、有度山などの自然、日本平などの景勝地、東海道の歴史など多彩な魅力にアクセスしやすい環境です。
- こうした、都市や自然への近接性は、新たな感染症の発生に伴う、市民の生活を守る生活様式として、テレワーク・在宅勤務などの多様な働き方を選択したり、週末には自然を楽しむこともできます。
- また、東静岡地区、草薙地区では、人口が増加傾向にあり、年少人口比率が高いなど、若い世帯が増加していると推察されます。
- このため、昔から住み続けてきた人にも、これから住み続ける人にも受け入れられる、多世代の多様な価値観を受け入れられるまちを目指します。
- また、南海トラフ地震や頻発する風水害などへの対応も重要となっており、災害から市民を守る安全安心に暮らせるまちを実現します。



<ママスクエア 託児スペース付き オフィス>

出典：新・公民連携最前線 (日経BP 総合研究所) HP



<AIオンデマンド交通について 国土交通省>

出典：国土交通省HP

方針に基づく取組案

- ◆ **多様な生活様式に対応した居住環境の充実**
 - 駅周辺へのサテライトオフィス・コワーキングスペースの誘導
 - 子育て世帯向けの駅周辺への託児スペース付オフィスの誘導
 - 美しく風格ある景観形成
 - MaaS による個人のニーズに応じた多様な移動手段(デマンド型乗合タクシーなど)の提供
- ◆ **自然災害、ポストコロナ等に対する安全安心な地域づくり**
 - いざというときに利用できるオープンスペースの確保や大規模集客施設との連携など、多様な避難環境の確保
 - 歩行者が自然を感じながら、過密を回避し、居心地の良い環境となる、安全で歩きたくなる空間づくり

<徳島県神山町>

- ✓ ブロードバンド環境を整え、オフィス開設の補助などを充実させることで、サテライトオフィスを整備したいITベンチャー系の企業の誘致を促進することに成功
- ✓ 取組みをはじめてからの3年間で31の企業が進出し、56名の地元雇用を生み出しただけでなく76世帯113名が移住



出典：神山町HP



<重点地区景観計画 東静岡駅周辺地区>

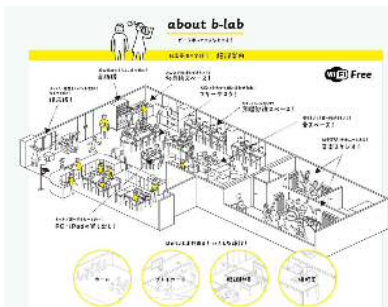
- ✓ 4つの景観形成の目標を設定
 - ・文化・スポーツエリア地区として、風格のある美しいまち並みの形成
 - ・豊かな緑を感じる公共空間形成
 - ・産官学民の集合による景観形成と維持保全
 - ・富士山眺望の確保

まちづくりの方針7

【多様な人々が共に暮らせるよう、まちをよくするために活動する人を、応援できる環境づくり】

多世代・多文化の交流の促進や、暮らし辛さを感じている人への支援など、人々が「暮らすまち」をよくするために活動する人が活動しやすい環境づくりを推進し、そこに産学官民が関わりネットワーク化していくことで、誰もが心豊かに生活できるまちづくりを実現する。

- 東静岡地区では、静岡都心との近接性から新住民が多く、草薙地区では、大学へ通う学生など若い世代も多くいます。
- 少子高齢化が進む現在の社会において、両地区は、多様な世代の交流が可能な素地があり、様々な価値観や生き方・働き方などを共有することで、持続的な地域社会を形成します。
- 年齢、性別、障害の有無、国籍等にとらわれない、多様な人々が交流し支えあう多世代・多文化共生社会で、誰もが心豊かに暮らせるまちを目指します。



<b-lab (ビーラボ)>

- ✓ 東京都文京区にある中高生向けの秘密基地のような教育センター（複合施設）。
- ✓ リビングのようにつろげたり、新しい仲間と出会ったり、バンド活動、ダンスなどやりたいことに思いきり打ち込める環境が整っている。

出典：ギャップイヤー・ジャパンHP



<静岡市多文化共生推進計画>



出典：静岡市異文化コミュニケーション体験フェア



<ニューヨーク ブライアント・パーク>



- ✓ 地域コミュニティの拠点として機能する、緑豊かな都会のオアシス。

出典：BRYANT PARK HP

方針に基づく取組案

◆ 多世代・多文化の地域への参加促進

- 老若男女、障害者、外国人による参加型イベントの開催
- 多文化共生サポーター養成講座〔静岡シチズンカレッジこ・こ・に専門課程〕の開催
- 公園等を活用した地域づくりの拠点形成

◆ まちをよくする活動を応援できる環境づくり

- 草薙カルテッド、商店街組合などの既存の組織の連携強化、新たな取組の促進
- 自立支援、学習支援、就労支援など、暮らし辛さを感じている人への支援に係る人が、活動しやすい環境づくり及びネットワーク化の促進



<静岡カエルCamp>

- ✓ 静岡市人材養成塾「まちみがきプロジェクト（2012年～）」の修了生を中心に、修了後も互いの活動をブラッシュアップ。
- ✓ 様々な主体が活動し、つながって地域をつくる環境構築を目指している。

出典：静岡カエルCampチラシから抜粋

4 エリアのまちづくりの考え方

- ここでは、これまで検討してきた方針と関連する施設ストック（整備予定のものも含む）の集積状況をエリアに図示しています。
- これらを有機的に結びつけることで、エリア全体の価値を高めていきます。
- 次ページからは、各方針に基づいた拠点のまちづくり（取組案）を示しています。

- 知の集積（方針1・2）
- スポーツの集積（方針3）
- 文化・芸術の集積（方針4）
- 拠点（方針5）
- 方針6・7は地域全体での取り組み

方針1【教育機関等の集積を活用した誰もが生涯にわたって学べる機会の創出】

- 心の豊かさや生きがいのために、生涯にわたって学び続けることができるリカレント教育や生涯学習などの取組、誰もが参加できるプラットフォーム※の構築など、学べる機会づくりを進める。

方針2【オープンイノベーション※による付加価値のある技術やサービス等の創出】

- 静岡大学、静岡県立大学、常葉大学などの教育機関や市環境保健研究所、市内企業などが相互に連携し、オープンイノベーションによる研究開発や創業などを進め、新たな付加価値のある技術・サービス等を創出する。

方針3【スポーツの持つ多面的な価値が醸成される拠点の形成】

- スポーツの3要素である「見る」、「する」、「支える」の視点で、個人の健康の増進はもとより、スポーツ観戦による体験やスポーツを支える地域活動を進め、地域の一体感や活力を醸成し、エリアの価値を高める。

方針4【市民が身近に親しむことができ、誇りに感じる地域に根差した芸術文化の創造】

- SPAC（静岡県舞台芸術センター）やグランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）など日本平周辺で培われてきた芸術文化の持つ魅力や創造性を「まちは劇場」としての取組に活かすことにより、市民が日常に芸術文化を感じ、ゆとりや潤い、刺激を楽しむことができるまちづくりを進める。



方針5【地域の活力を向上させるための拠点性の強化】

- 東静岡地区と草薙地区に加え、将来の発展が見込まれる大谷・小鹿地区を連携させることで、静岡都心・清水都心に挟まれた日本平周辺の広域的なエリアの魅力や経済活力を向上させる。

方針6【快適で安全安心な暮らしのための環境づくり】

- 多様な世代が快適な生活を営む居住環境整備を推進するとともに、自然と共生した安全安心な生活を実現する。

方針7【多様な人々が共に暮らせるよう、まちをよくするために活動する人を、応援できる環境づくり】

- 多世代・多文化の交流の促進や、暮らし辛さを感じている人への支援など、人々が「暮らすまち」をよくするために活動する人が活動しやすい環境づくりを推進し、そこに産学官民が関わりネットワーク化していくことで、誰もが心豊かに生活できるまちづくりを実現する。

将来の発展が見込まれる地区



5 拠点のまちづくり(東静岡地区)

東静岡地区

1 文化・スポーツ拠点の創出

「文化・スポーツの殿堂」として相応しい拠点の整備・運営を検討し、プロスポーツの観戦や、エンターテインメント性の高い芸術・文化に親しむ場などを創出することによって、まちの賑わいづくりと学びの機会づくりを進める。

方針 3

方針 5

2 新県立中央図書館の整備

県内図書館の中核として、市町立図書館を支援しつつ、未来につながる新しい図書館を整備することで、知のインフラとしての役割を継続すると共に静岡の新たな文化を創造・発信する。

方針 1

方針 4

3 文化・芸術の振興

世界に誇る「SPAC（静岡県舞台芸術センター）」の活動など、地域に根差した文化・芸術活動を展開することで、このエリアにしかできない、個性・特徴あるまちづくりを展開する。

方針 4

4 地域活動との連携

地域活動と連携したイベント開催やまちづくりを推進することでまちの賑い創出や関連産業の発展を図るとともに、「文化・スポーツの殿堂」としての東静岡を国内外にPRする。

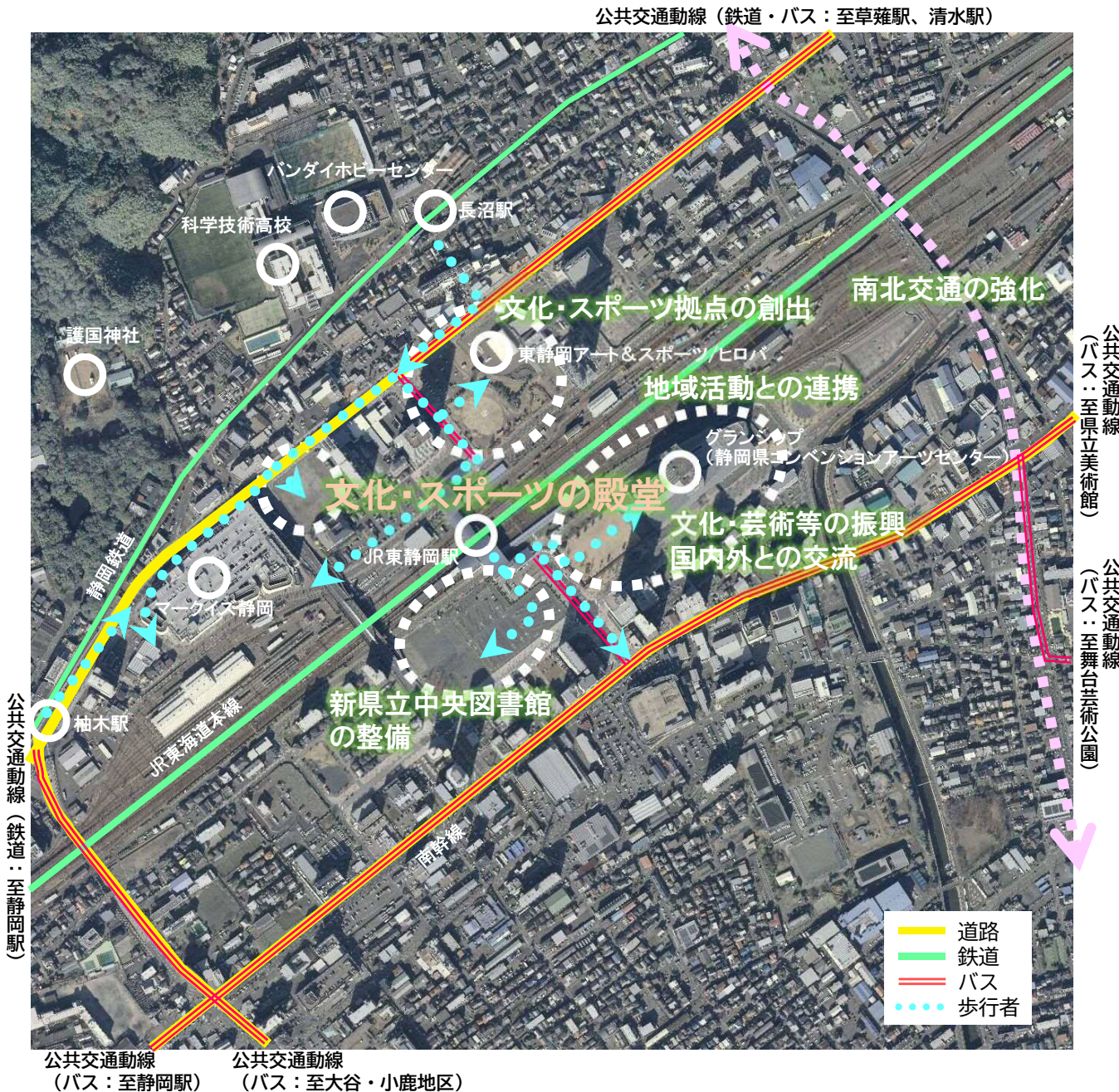
方針 3

方針 4

5 南北交通の強化

新東名新静岡ICから東名日本平久能山スマートICをつなぐ、静岡市南北を横断する道路環境を整えることで、地域の交通アクセスを向上させるとともに、経済活動をエリアの後背地にも波及させる。

方針 5



5 拠点のまちづくり(草薙地区)

草薙地区

- 1 多様な移動手段の確保** 方針 6

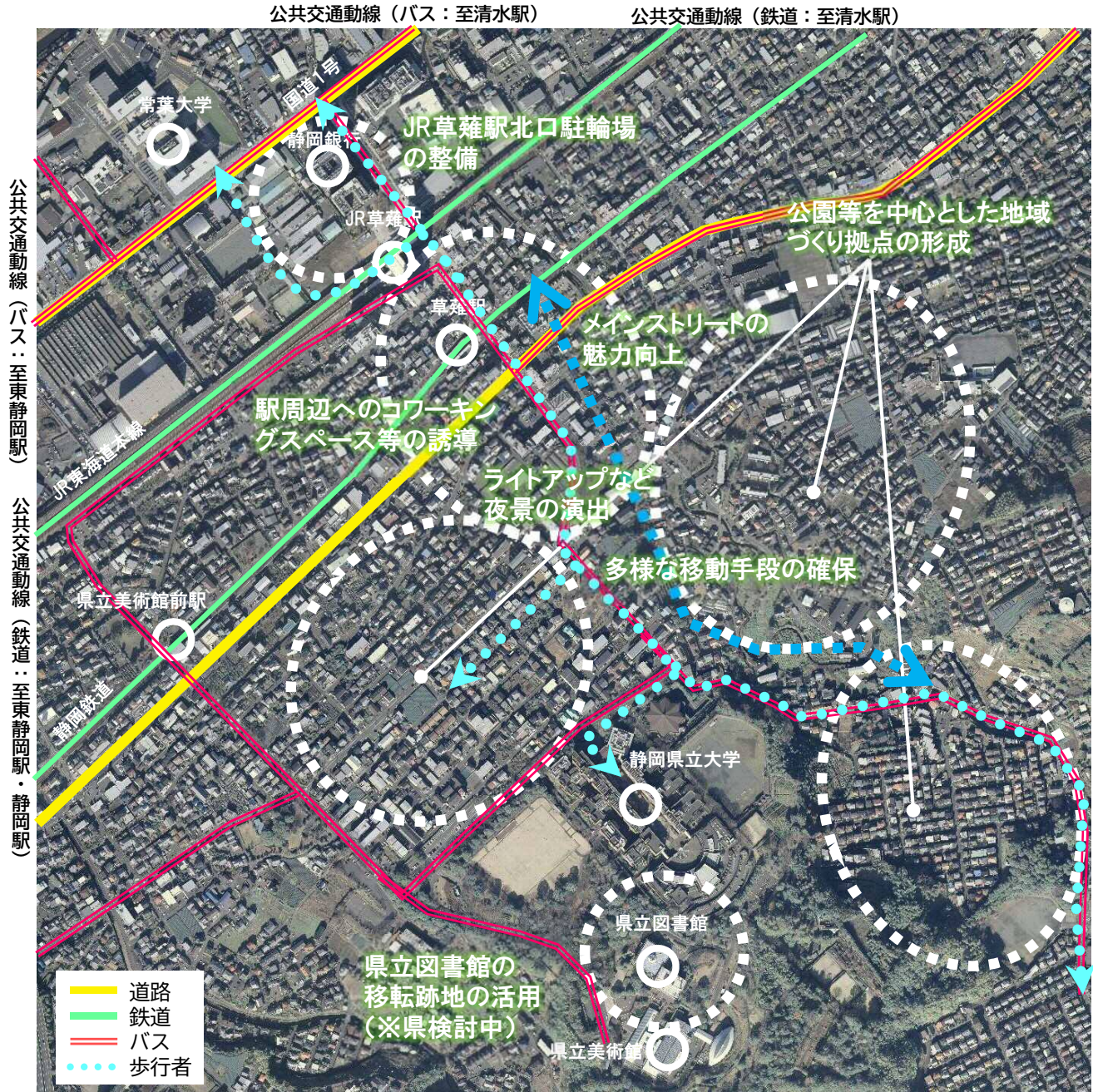
住宅団地、奥・山の手エリア等から草薙駅までの移動環境として、地域が主体となって小回りの利く「コミュニティバス」「デマンド型乗合タクシー」等を検討する。
- 2 ライトアップなど夜景の演出** 方針 4 方針 6

住宅地の安全性や安心感を高めるとともに、まちなみを演出し、地域の魅力を高める照明の充実を図る。
- 3 公園等を中心とした地域づくりの拠点形成** 方針 7

地域住民が普段から利用する公園・緑地の維持管理・有効活用の促進（イベント開催）等を図る。
- 4 JR草薙駅北口駐輪場の整備** 方針 6 方針 7

駐輪場の機能と共に、地域に開かれた公共空間を整備することで学生などが憩い、南北が一体となった居心地の良い空間を創出する。
- 5 多様な働き方や学び方ができる場の創出** 方針 1 方針 6

地域住民や学生などが利用できるサテライトオフィスやコワーキングスペース等の場を草薙駅周辺に創出する。



6 将来の発展が見込まれる地区(大谷・小鹿地区)

大谷・小鹿地区

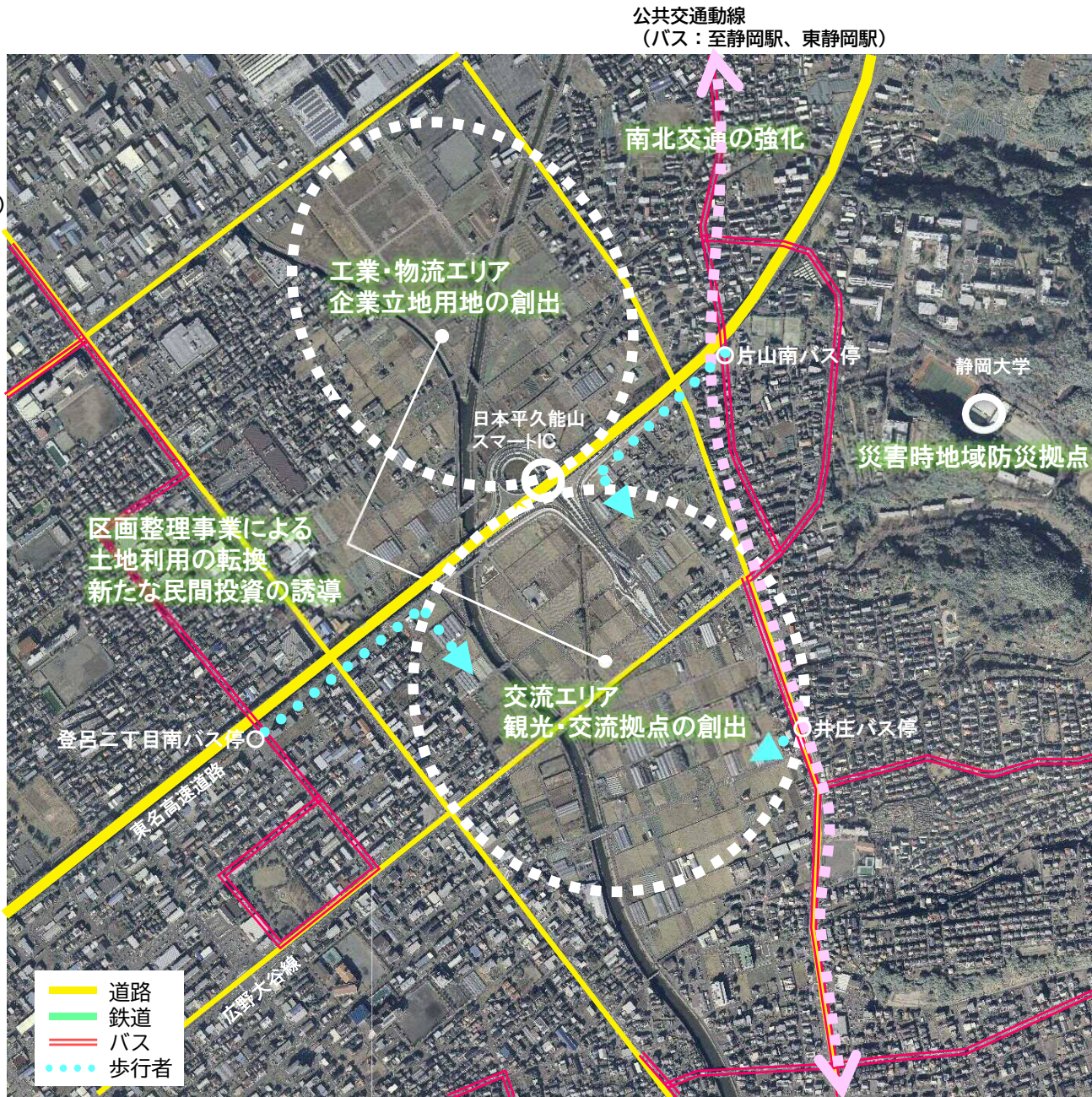
1 **「静岡」をアピールするフロント機能の創出**
 スポーツ、食、魅せる工場などをテーマに、魅力ある交流エリアを創出することで、来訪者を「静岡のファン」にしていくとともに、「静岡らしさ」を伝承・継承させる。

2 **新たな産業集積による雇用創出**
 区画整理事業により生み出された企業立地用地を最大限に活かし、エリアの経済活力を向上させる。

3 **新ICを活かした周辺観光交流の促進**
 日本平、久能山東照宮、三保松原など、多様な個性を持つ様々な観光資源と相互に連携する対流構造を生み出し、静岡市全域の活性化を図る。

4 **静岡市南北を横断する道路環境の強化**
 新ICから静岡市の都心エリアにつながる交通環境を整えることで、地域の交通アクセスを向上させるとともに、経済活動を静岡市全域に波及させる。

公共交通動線
 (バス：至静岡駅)



7 グランドデザインの実現化に向けた実施体制

<産学官民が連携したエリアマネジメント※組織>

- グランドデザインの実現に向けては、これまでの地域の活動や実状に配慮しつつ、地域に根付いた取組として、産・学・官・民の関係者を巻き込みながら、持続的・発展的な推進体制のもとに取り組んで行くことが重要となります。
- このため、草薙駅周辺で進められている「草薙商店会」、「草薙カルテッド」などのまちづくりの取組を進めるとともに、東静岡駅周辺においても、地域やプレイヤー・担い手が主体となった取り組みが進められる機運の醸成を進めていきます。

<産学官民の役割イメージについて>

想定される主体：静岡県、静岡市など
 【想定される取組】
 ✓ まちづくり活動への情報提供、人材支援
 ✓ 公共施設などのまちづくり活動の場の提供 等

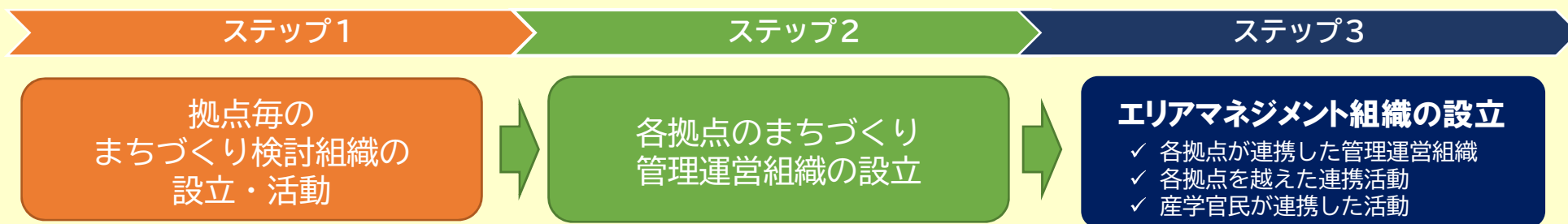
想定される主体：自治会、市民団体、地域住民、来街者など
 【想定される取組】
 ✓ 地域のまちづくり活動やイベント運営への参加
 ✓ まちづくりのワークショップへの参加 等



想定される主体：民間企業、商店街など
 【想定される取組】
 ✓ 集客性を持ったイベント開催などによる地域情報の発信
 ✓ サテライトオフィスなど地域での新たな働き方への対応 等

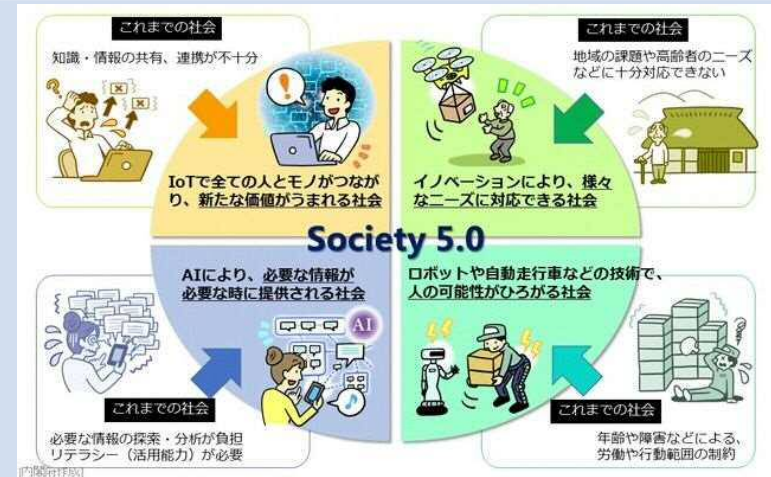
想定される主体：静岡大学、静岡県立大学、常葉大学、新県立中央図書館など
 【想定される取組】
 ✓ リカレント教育、生涯学習の実施
 ✓ 地域住民などを対象としたフィールドワークの開催 等

<実施体制の立ち上げに向けたイメージ>



<用語集>

用語	解説
ICT(アイシーティー)	Information and Communication Technology (インフォメーション アンド コミュニケーション テクノロジー) の略で、通信技術を使って人とインターネット、人と人が繋がる技術 (メール、 SNS など) のこと。
プラットフォーム	ここで示すプラットフォームは、「誰もが自由に参加することのできる舞台のようなもの」を意味する。
オープンイノベーション	企業内部と外部のアイデアを有機的に結合させ、価値を創造することであり、組織の外部で生み出された知識を社内の経営資源と戦略的に組み合わせることと、社内で活用されていない経営資源を社外で活用することにより、イノベーション (技術革新) を創出することの両方を指す。
シビックプライド	シビック (市民の、都市の) +プライド (誇り) を合わせた言葉で、都市に対する誇りや愛着のこと。
Society5.0 (ソサエティ5.0)	<p>狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society 4.0) に続く、新たな社会を指すもので、先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、イノベーション (技術革新) から新たな価値が創造されることにより、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会のこと。</p> <p>出典：内閣府HP</p>
MaaS (マース)	Mobility as a Service (モビリティ・アズ・ア・サービス) の略で、バス、電車、タクシーからライドシェア、シェアサイクルといったあらゆる公共交通機関を、ITを用いてシームレスに結びつけ、人々が効率よく、かつ便利に使えるようにするなど、移動を単なる手段としてではなく、一元的なサービスとして捉える概念。
リカレント教育	義務教育の終了後、教育と就労を交互に繰り返す教育システムのこと。働きながら学ぶ場合や学校以外での学びを広く含む。
エリアマネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組のこと。



駿河まなびのまちづくりグランドデザイン

<資料編>

資1 静岡市の都市構造

<静岡市の面積・人口>

面積

全国市区町村で6番目、
政令指定都市では2番目の広さ

- 市域面積 約1,412km²
- 都市計画区域面積 約 235km²



人口

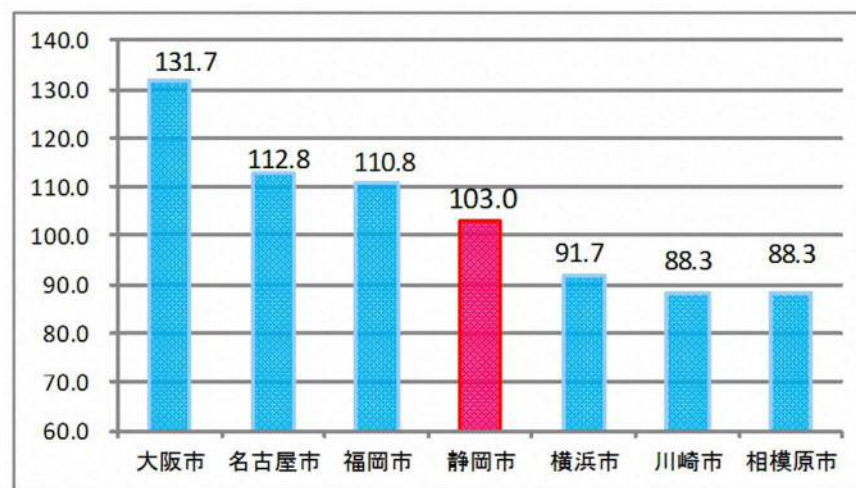
人口 694,296人
(住民基本台帳人口(日本人+外国人))

※令和2年12月末日現在

昼夜間人口比率 103.0

※総務省「国勢調査」(平成27年度)

％ 昼夜間人口比率の政令指定都市比較



資1 静岡市の都市構造

＜産業＞

産業構造

- 第3次産業の商業を中心とした都市
- 清水港周辺を中心とした製造業の立地が多く、第2次産業の割合も高い。
- 茶、みかんを中心とした第1次産業

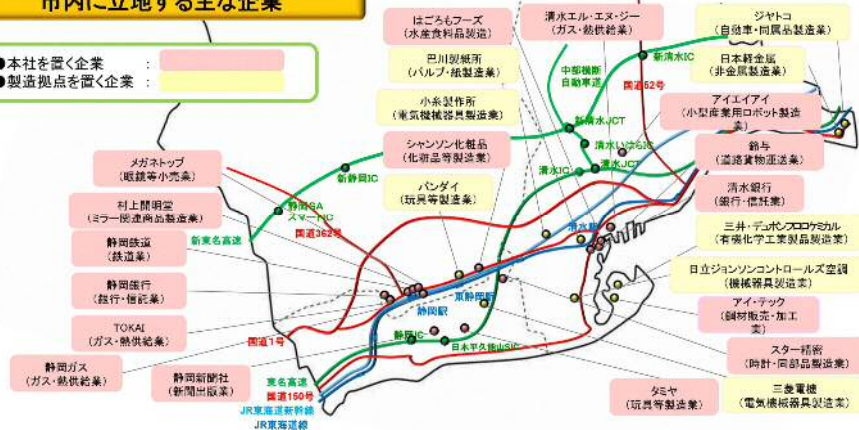
事業所数・就業者数



出典：総務省「平成28年経済センサス活動調査」「国勢調査」(平成27年)

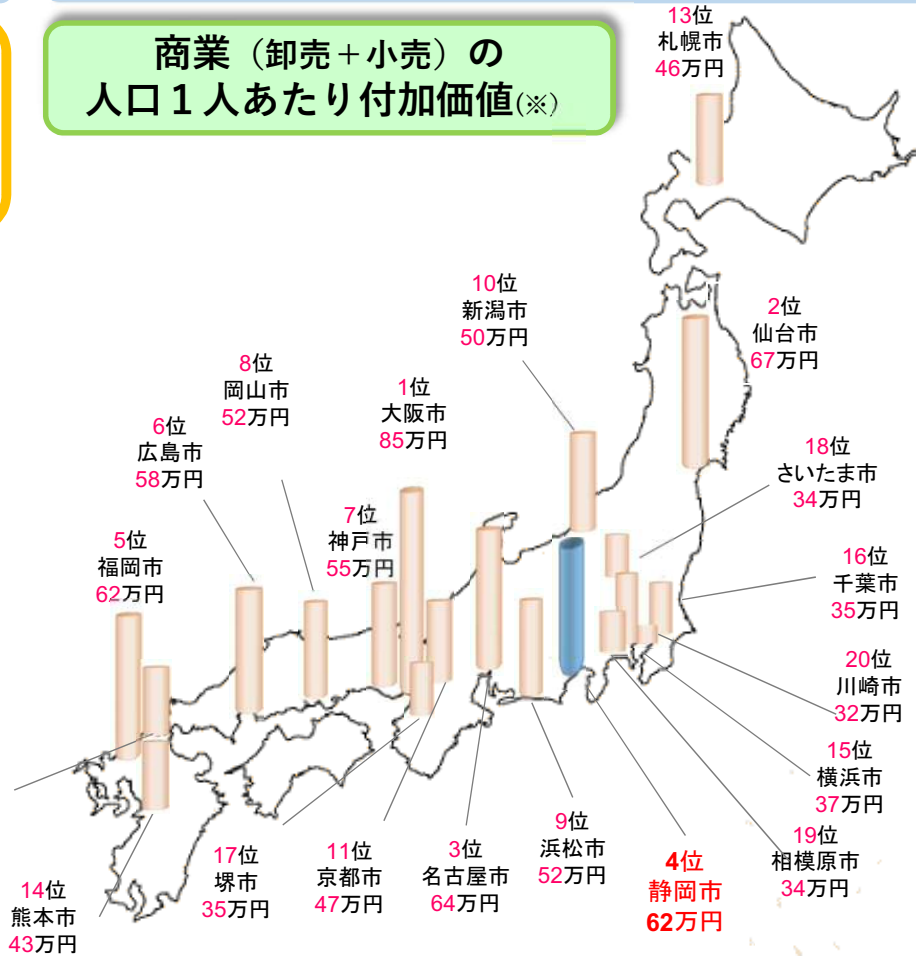
市内に立地する主な企業

- 本社を置く企業
- 製造拠点を置く企業



商業の集積

商業（卸売+小売）の人口1人あたり付加価値(※)



※付加価値額：「売上高－費用総額＋給与総額＋租税公課」で算出され、商業における営業利益と人件費などの合計。付加価値が大きいことは、顧客吸引力のある商業都市であることを表し、安定した雇用と税収が確保できる。

資料：総務省「平成28年経済センサス活動調査」「国勢調査」(平成27年) より算出

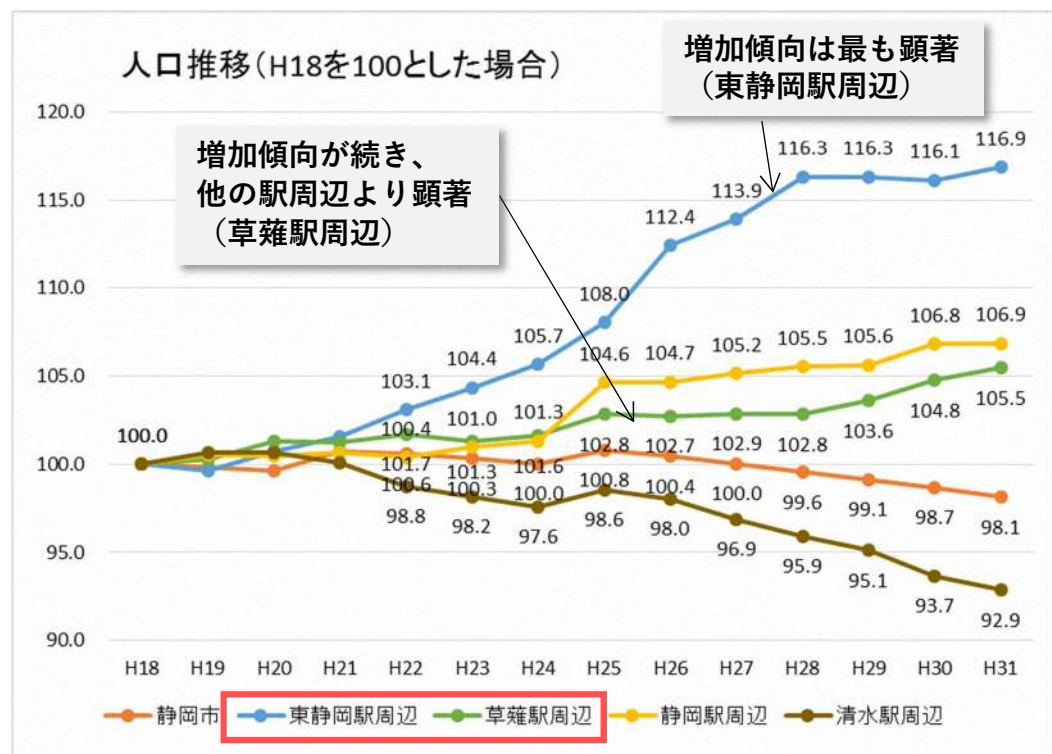
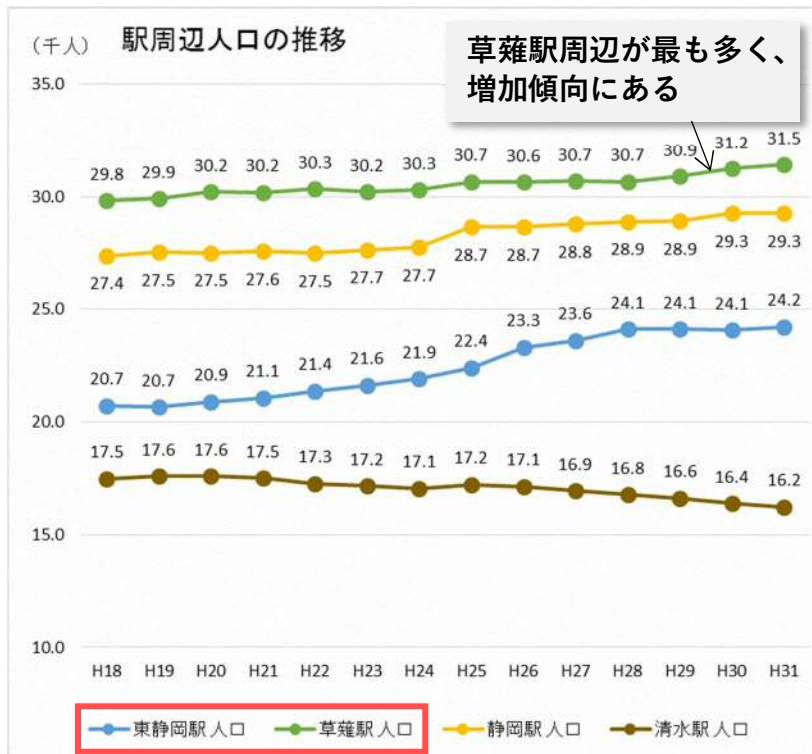
資2 本市を取り巻く状況

◆人口の推移

○静岡市は人口が減少していますが、東静岡、草薙の人口は増加しています。

◆人口(各年3月31日)(単位:人)駅を中心とした1km圏

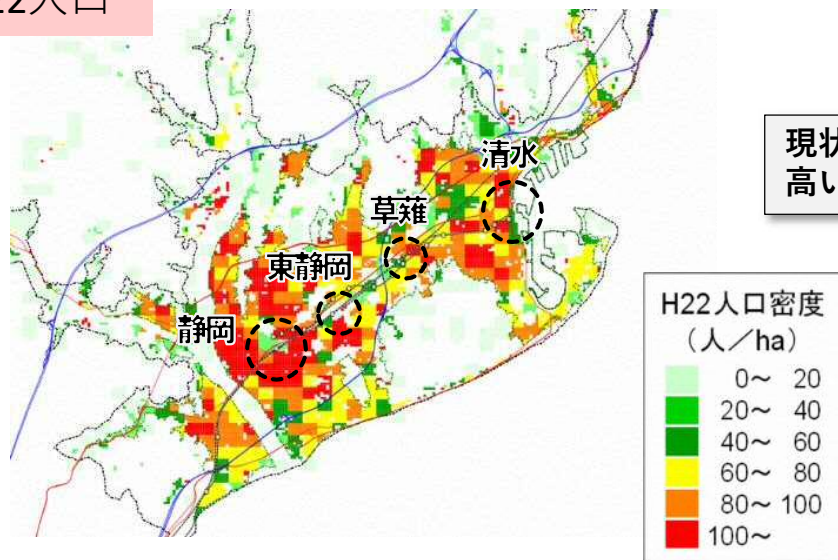
		H18.3	H19.3	H20.3	H21.3	H22.3	H23.3	H24.3	H25.3	H26.3	H27.3	H28.3	H29.3	H30.3	H31.3
東静岡駅	人口	20,737	20,663	20,894	21,061	21,381	21,641	21,909	22,406	23,315	23,623	24,124	24,122	24,080	24,232
	世帯数	8,650	8,720	8,885	9,056	9,328	9,572	9,785	10,069	10,471	10,744	11,093	11,152	11,216	11,398
草薙駅	人口	29,824	29,915	30,212	30,193	30,333	30,212	30,301	30,672	30,638	30,678	30,673	30,903	31,245	31,453
	世帯数	11,900	12,046	12,291	12,391	12,506	12,576	12,715	13,103	13,199	13,304	13,404	13,628	13,986	14,264
静岡駅	人口	27,387	27,528	27,517	27,567	27,492	27,650	27,748	28,655	28,667	28,798	28,903	28,928	29,261	29,265
	世帯数	12,665	12,897	13,003	13,233	13,350	13,573	13,803	14,556	14,690	14,913	15,127	15,268	15,648	15,728
清水駅	人口	17,481	17,596	17,596	17,497	17,264	17,161	17,062	17,230	17,140	16,936	16,768	16,624	16,373	16,232
	世帯数	6,859	6,997	7,061	7,112	7,087	7,171	7,218	7,440	7,508	7,524	7,553	7,553	7,548	7,564



資2 本市を取り巻く状況

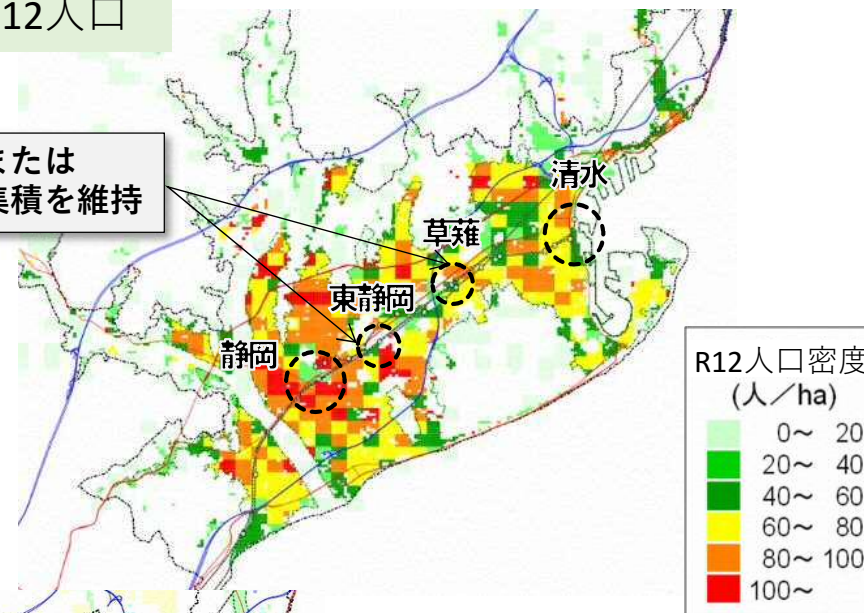
○将来的に静岡都心、清水都心の人口減少が想定されます。

H22人口

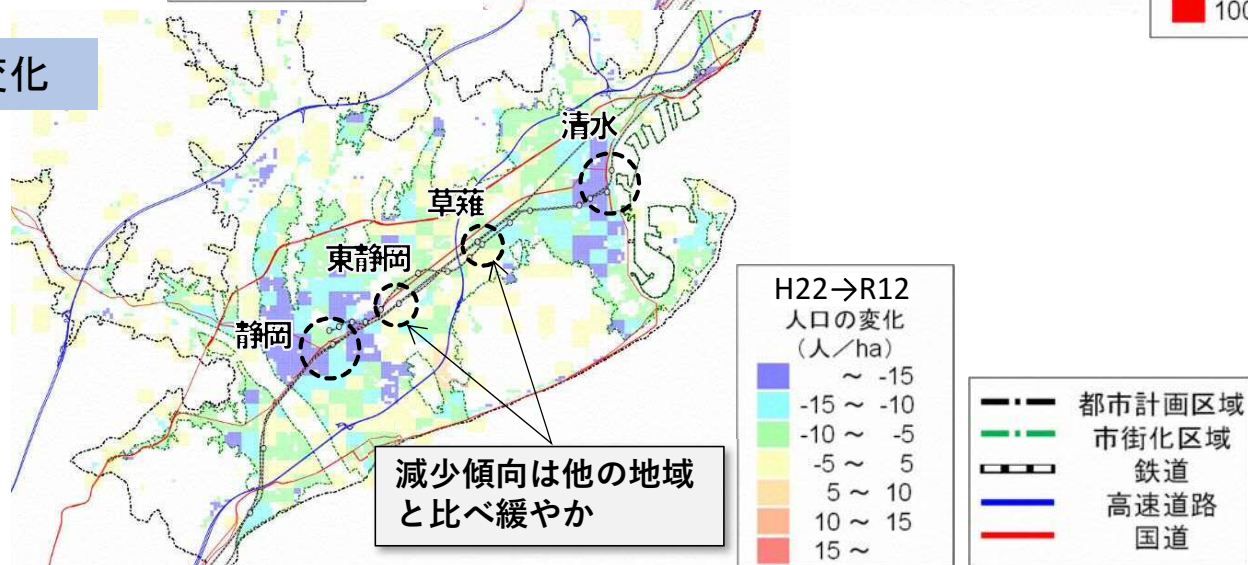


R12人口

現状維持または
高い人口集積を維持



H22→R12の人口変化



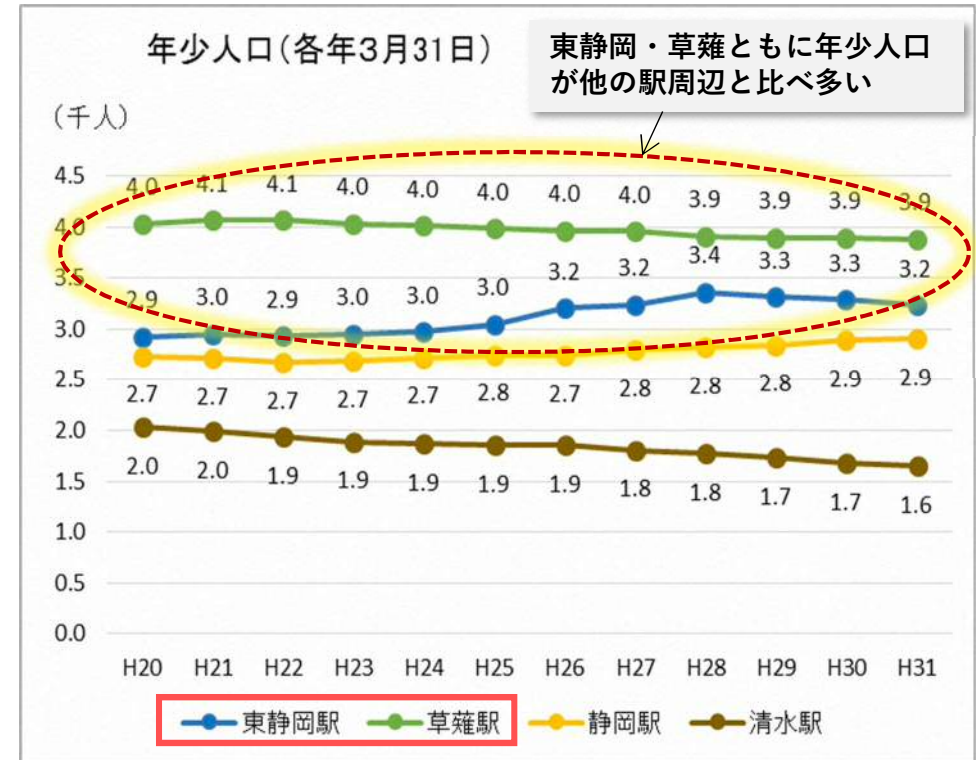
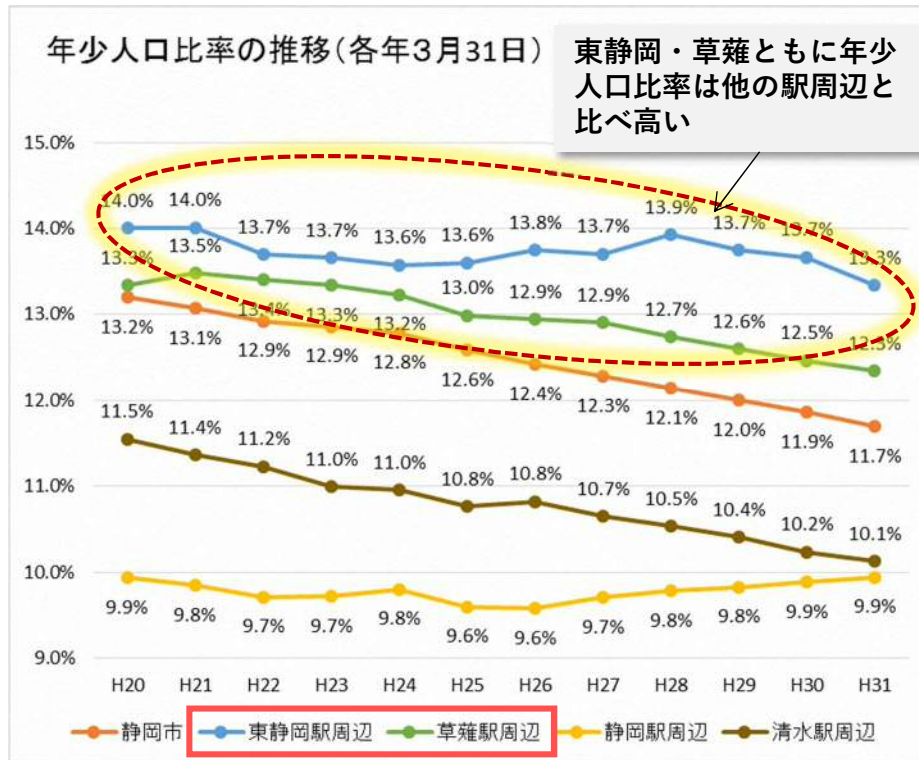
資料:「国勢調査(平成22年)」総務省をもとに作成

資2 本市を取り巻く状況

◆年少人口比率の推移

- 市全体、清水都心は、年少人口比率の低下が顕著です。
- 東静岡及び草薙は、比較的年少人口比率が高く推移しています。

※年少人口（15歳未満）



東静岡駅周辺でのマンション開発

- ◆H28プレミスト東静岡ステーションレジデンス、プレミスト東静岡南口II
- ◆H27サーパスタワー東静岡
- ◆H26マークス・アネシスタワー東静岡、メゾン・ヴァンパール東静岡
- ◆H25ル・シェモア東静岡、プレミスト東静岡ステーションティアラ、サーパス東静岡柚木

<年少人口の推移>

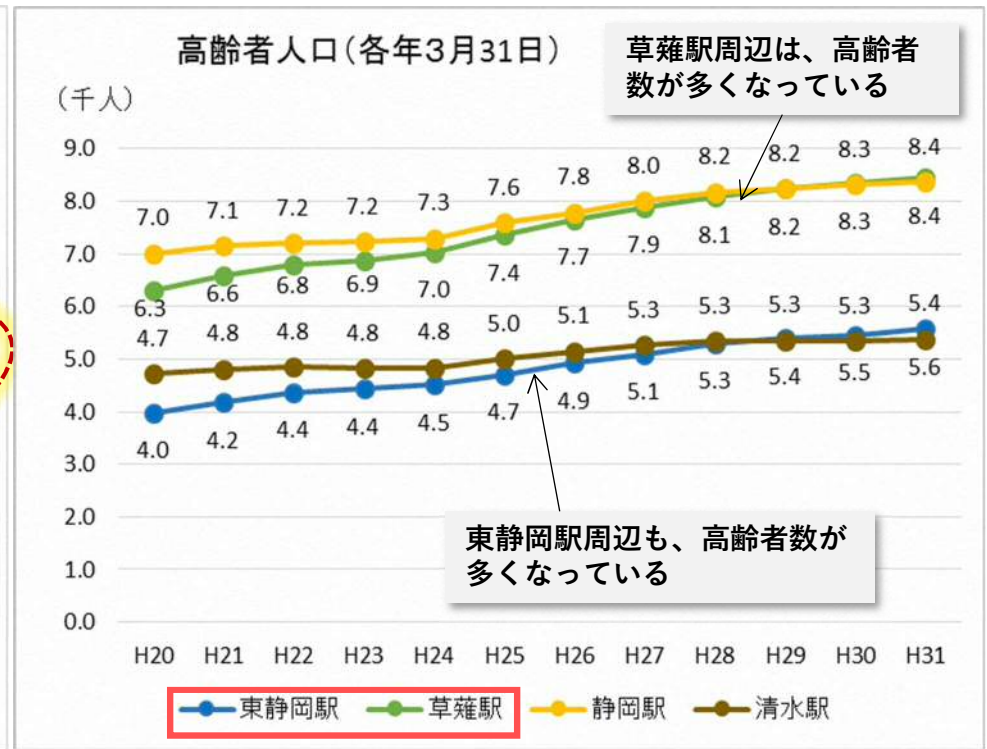
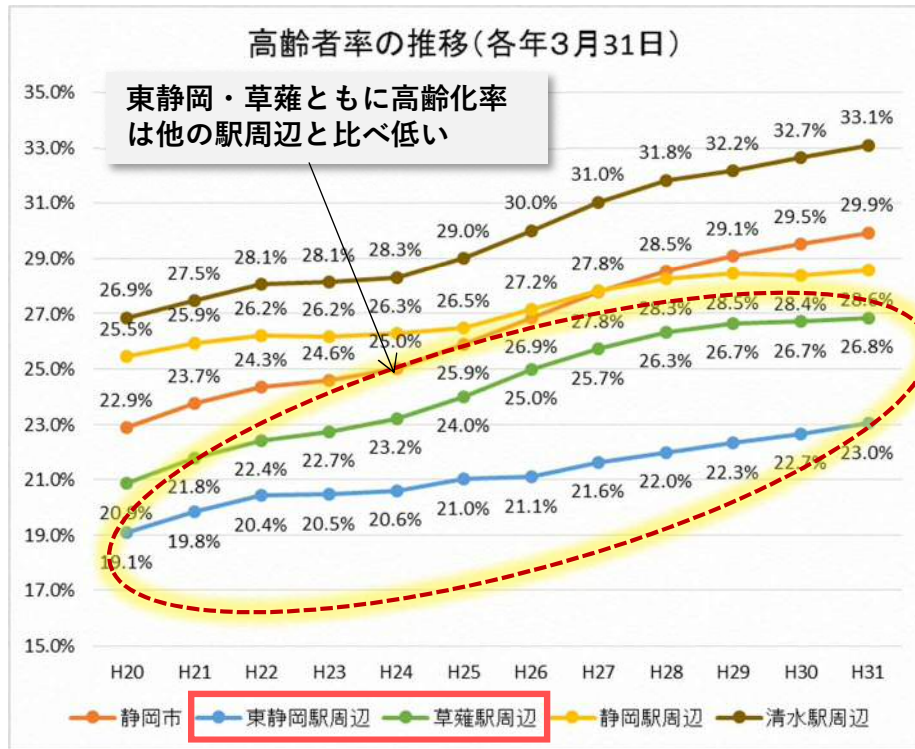
	※各年3月											
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
東静岡駅	2,926	2,951	2,929	2,956	2,974	3,048	3,206	3,237	3,360	3,316	3,291	3,232
草薙駅	4,030	4,070	4,066	4,031	4,010	3,984	3,966	3,959	3,908	3,895	3,896	3,884
静岡駅	2,734	2,715	2,671	2,688	2,720	2,751	2,746	2,795	2,828	2,844	2,892	2,910
清水駅	2,032	1,989	1,939	1,887	1,870	1,855	1,855	1,804	1,767	1,731	1,676	1,644

資2 本市を取り巻く状況

◆高齢者率の推移

- 高齢者率は全てで増加傾向にあります。東静岡及び草薙周辺の割合は低い状況です。
- 草薙駅周辺の高齢者人口は、高い水準で推移しています。

※高齢者人口（65歳以上）



< 高齢者人口の推移 >

※各年3月

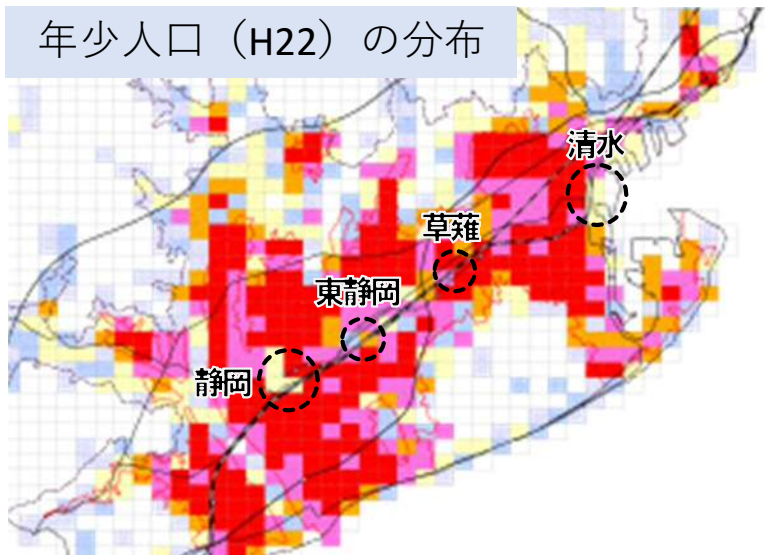
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
東静岡駅	3,986	4,174	4,368	4,429	4,512	4,711	4,920	5,100	5,302	5,385	5,455	5,579
草薙駅	6,304	6,580	6,799	6,868	7,035	7,362	7,657	7,889	8,081	8,237	8,345	8,445
静岡駅	7,004	7,149	7,204	7,232	7,293	7,587	7,785	8,010	8,168	8,232	8,310	8,363
清水駅	4,725	4,805	4,843	4,827	4,832	4,997	5,144	5,257	5,339	5,349	5,346	5,375

資2 本市を取り巻く状況

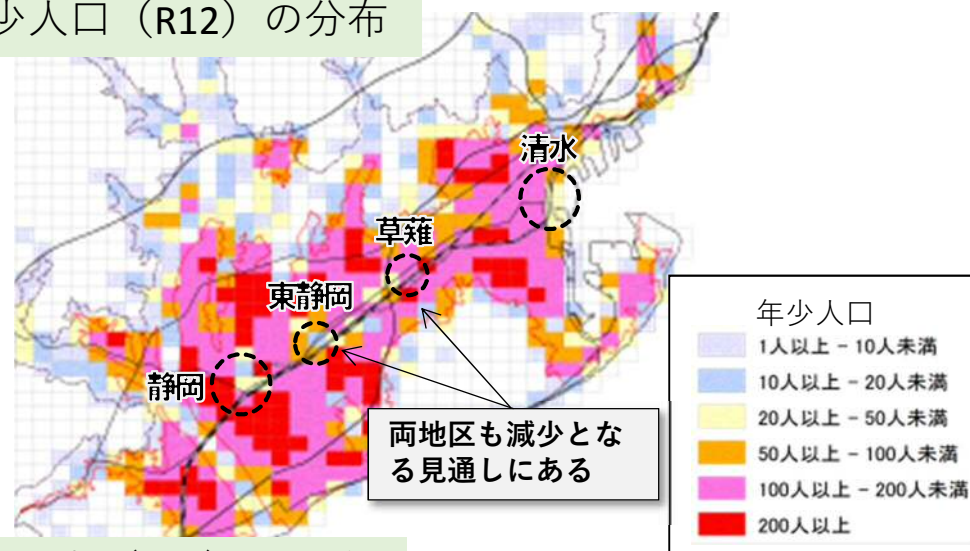
◆将来年少人口比率・高齢化率の見通し

○将来的に静岡都心、清水都心の年少人口の減少、高齢化が見込まれます。

年少人口（H22）の分布



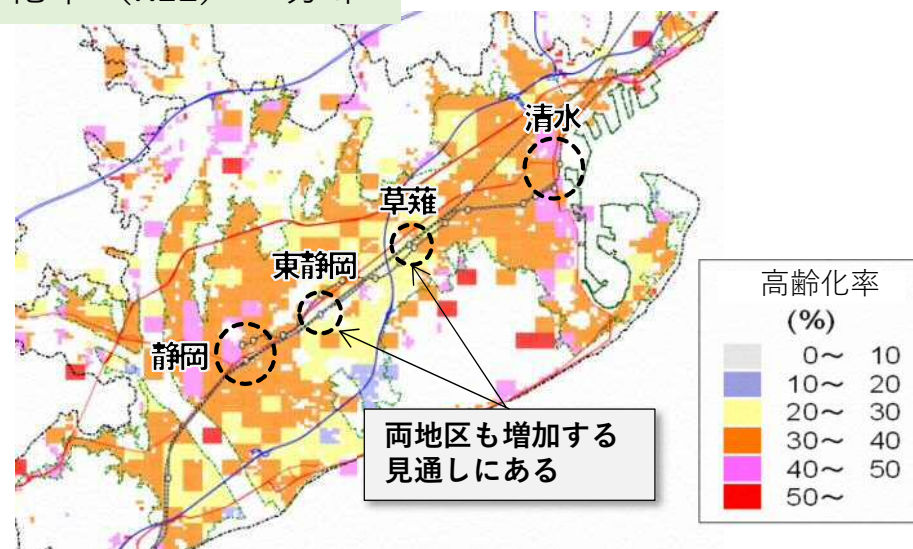
年少人口（R12）の分布



高齢化率（H22）の分布



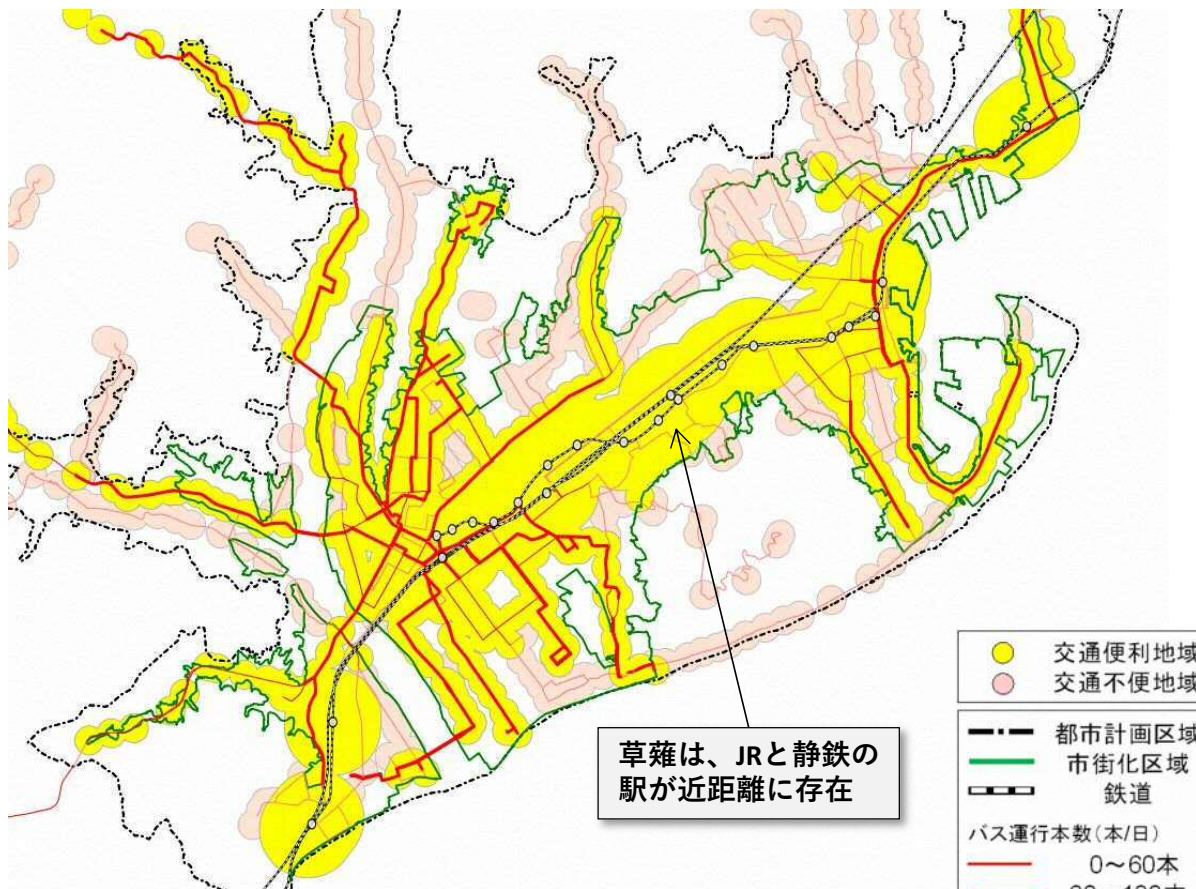
高齢化率（R12）の分布



資2 本市を取り巻く状況

◆駅利用者数

○東静岡・草薙は交通結節点となっており、駅1km圏内の人口増加もあり、駅利用者数は増加傾向にあります。



		バス		
		バス停から300m圏内		バス停から300m圏内外
鉄道	駅から1km圏内	運行本数60回/日(往復)以上	運行本数60回/日(往復)未満	
	駅から1km圏外	公共交通便利地域		公共交通空白地域

60回/日(往復)は、片方向でおよそピーク時4本/日、ピーク時以外2本/日の運行

資料：「H22国土数値情報」国土交通省より作成

資2 本市を取り巻く状況

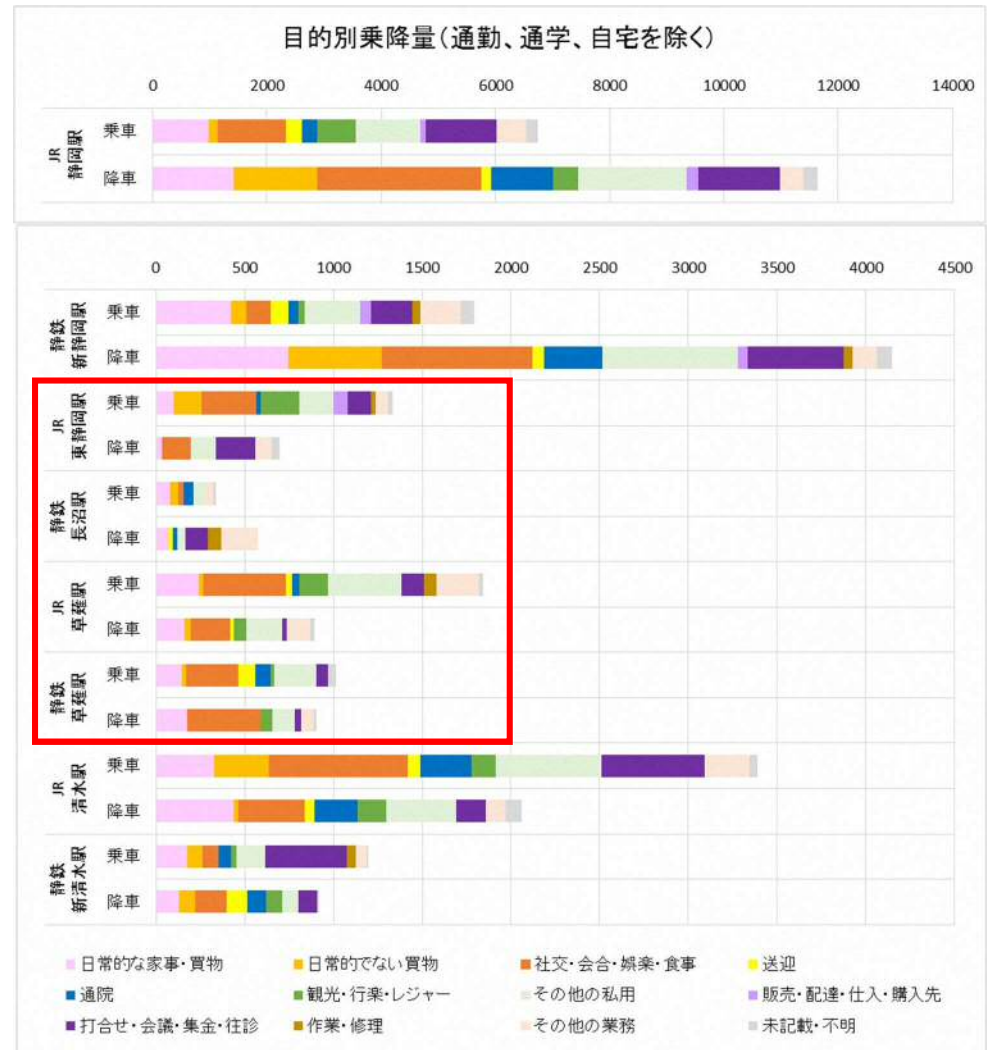
◆利用目的別乗降量

○東静岡駅・長沼駅は、娯楽や観光目的での乗車、会議や業務目的での降車が多い状況です。
 ○草薙駅では、娯楽、日常的な買物、私用目的での乗降車が多い状況です。

<利用目的別乗降量>

駅	乗降	勤務先へ(帰社含)	通学先へ(帰校含)	自宅へ	日常的な家事・買物	日常的でない買物	社交・会合・娯楽・食事	送迎	通院	観光・行楽・レジャー	その他の私用	販売・配達・仕入・購入先	打合せ・会議・集金・往診	作業・修理	その他の業務	未記載・不明
JR静岡駅	乗車	9526	3106	44910	982	160	1188	290	268	672	1128	96	1230	0	530	198
	降車	30766	7534	14100	1418	1464	2872	164	1098	426	1908	200	1436	0	398	264
静鉄新静岡駅	乗車	2314	280	11478	426	84	134	102	56	36	314	60	230	46	230	76
	降車	7750	1096	2414	746	526	848	68	328	0	760	60	540	48	138	83
JR東静岡駅	乗車	3598	1474	5070	98	158	310	0	24	216	192	84	130	24	72	23
	降車	2600	2648	5510	36	0	158	0	0	0	144	0	222	0	90	45
静鉄長沼駅	乗車	1246	134	656	80	44	30	0	56	0	74	0	0	0	40	16
	降車	318	212	1456	68	0	0	26	28	0	42	0	126	80	204	0
JR草薙駅	乗車	4358	748	5944	240	26	464	38	42	158	416	0	124	74	238	22
	降車	4080	2454	5120	162	36	218	24	0	70	202	0	24	0	134	23
静鉄草薙駅	乗車	2350	318	2592	148	22	296	92	86	22	236	0	66	0	0	45
	降車	2014	518	3022	174	0	418	0	0	64	126	0	36	0	68	18
JR清水駅	乗車	7062	2862	6090	330	304	786	68	292	132	598	0	580	0	252	48
	降車	4764	1446	11208	438	26	372	56	246	160	392	0	170	0	110	93
静鉄新清水駅	乗車	1344	484	2652	178	84	92	0	72	28	164	0	458	48	60	13
	降車	2440	214	1872	130	90	180	112	108	94	88	0	106	0	0	10

資料：第4回静岡中部パーソントリップ調査より作成



資3 東静岡・草薙地区の動向

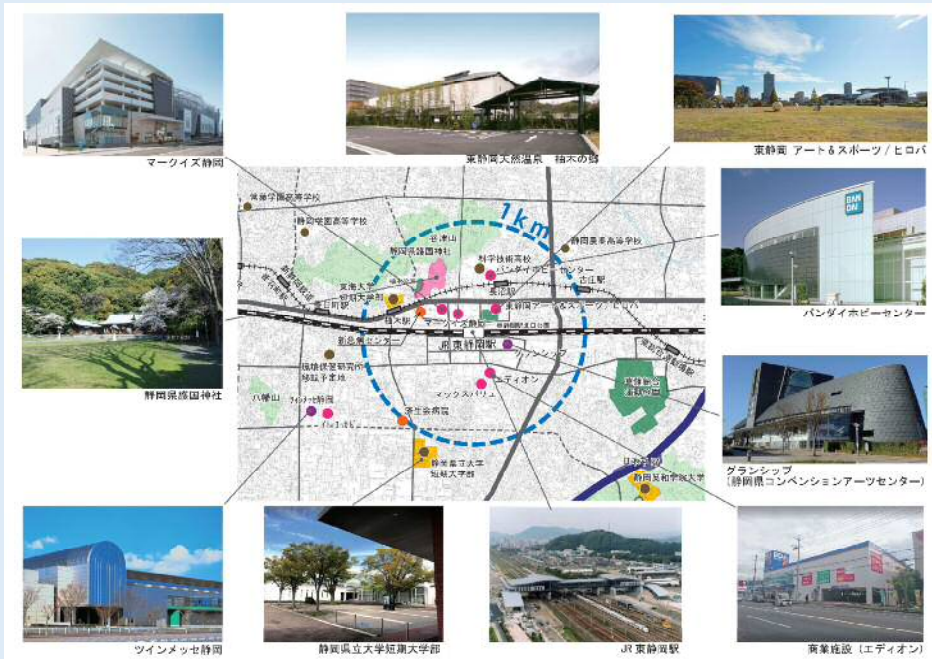
東静岡地区

【特性】

- ◇人口は平成28年以降横ばい推移。年少人口は多く、高齢者人口は少ない
- ◇「東静岡アート&スポーツ/ヒロバ」などのスポーツレクリエーション施設が立地
- ◇グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）ツインメッセ静岡などの文化施設が立地
- ◇平成25年以降マンションなどの都市型住宅が増加



<施設の分布>



草薙地区

【特性】

- ◇人口は平成30年以降に増加傾向。年少人口は多く、高齢者人口も多い
- ◇良好な住宅地や駅前商店街などが形成
- ◇県立大学、県立美術館・図書館、常葉大学などの教育文化施設が集積・商業系土地利用への転換が進む
- ◇JRと静岡鉄道の草薙駅が近接し、公共交通の利便性が高い
- ◇都市再生推進法人である「一般社団法人 草薙カルテッド」が設立



<施設の分布>



コラム（まなび・居住などの機能集約した都市の事例）

泉パークタウン(宮城県仙台市)

【事例のポイント】

◆住む・働く・学ぶ・集う・楽しむトータルバランスのとれた都市の形成

約1000haの敷地に住宅や工業団地、教育施設、商業施設、スポーツ・レクリエーション施設、公園・緑地などがバランスよく配置された完結した都市として整備

◆仙台北部中核テクノポリスとしての機能集積

研究開発や国際交流のための各種施設を集中的に立地させる「二十一世紀プラザ」構想に基づき、仙台ロイヤルパークホテル、宮城県図書館、宮城大学、宮城県産業技術総合センターなどが立地

【経緯】

昭和44年:事業開始

昭和49年:第一期高森地区の入居が開始

平成7年:仙台ロイヤルパークホテルオープン

平成9年:宮城大学開学

平成10年:宮城県図書館開館

平成11年:宮城県産業技術総合センターオープン

平成20年:商業施設(タピオ、アウトレット)オープン

平成30年:第6住区 造成開始



宮城大学



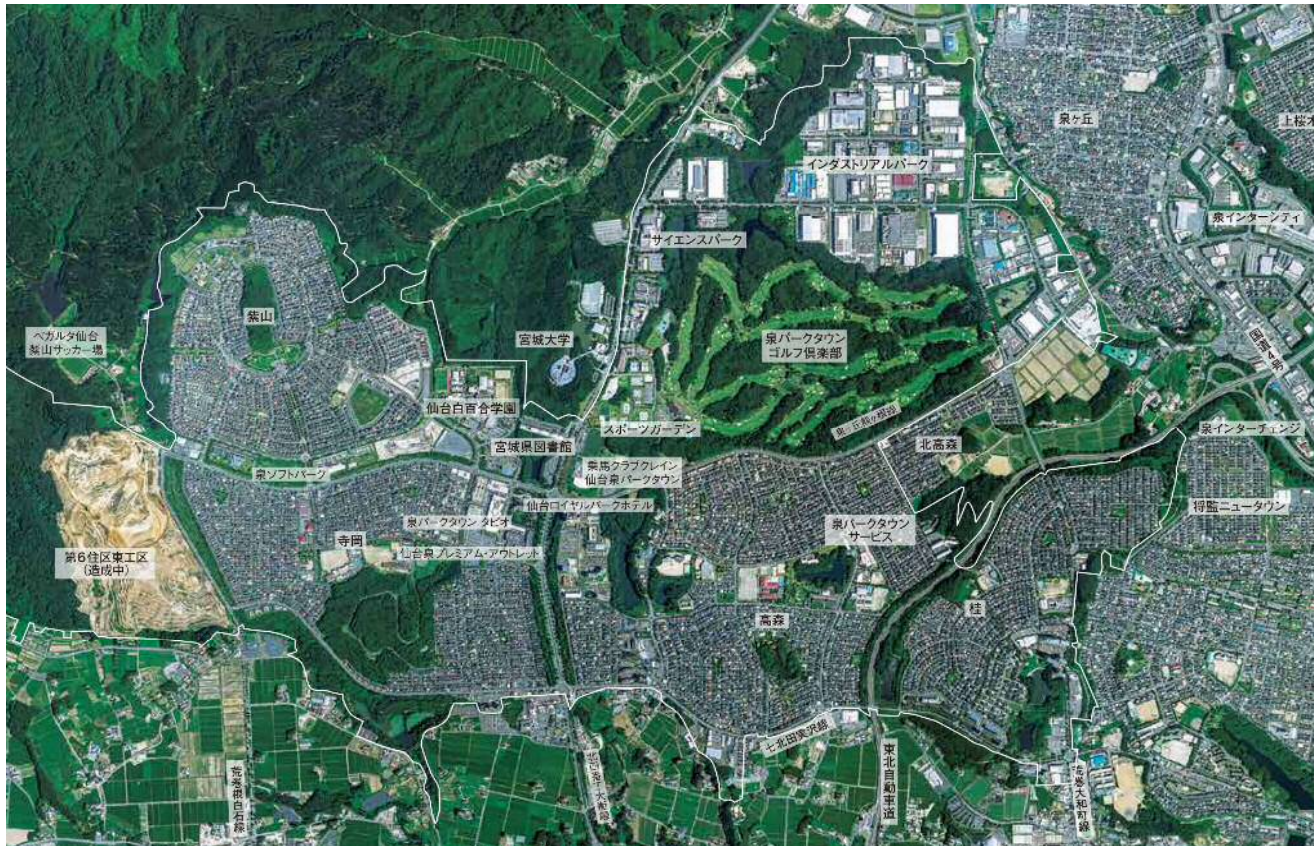
宮城県図書館



産業技術総合センター



商業施設



コラム（スポーツを中心とした都市づくりの事例）

ゼビオアリーナ仙台（仙台市太白区あすと長町）

【事例のポイント】

- ◆市有地を活用した民設共営によるアリーナの建設
市有地に20年間の定期借地権契約を締結し、100%民間出資での建設が行われ、民間事業者が建物の建設、維持運営を実施
- ◆スポーツを中心とした複合タウンの実現
併設された公園広場、屋内型スポーツパーク（テニス・バスケット・フットサル）と組合せて総合イベントを開催

「ゼビオアリーナ仙台」



- ✓ゼビオアリーナ仙台は仙台駅からJRでは1駅・地下鉄では5駅の長町駅から徒歩5分に位置する多目的スポーツ&エンターテインメントアリーナ。
- ✓日本最大規模のセンターマルチディスプレイやVIPルームなど、施設の充実を図ったアリーナは、エンターテインメントの魅力を最大化することもコンセプトにした多目的施設でもあり、スポーツに限らずさまざまな大規模イベントが開催されている。
- ✓周辺にはスポーツ・フィットネス・ウェルネス関連施設、飲食施設が集積されている他、駅前に高級マンションが建設され、周辺人口が増大している。

出典：ゼビオアリーナHP

【経緯】

ゼビオアリーナ仙台が位置するあすと長町には江戸時代奥州街道の宿場が置かれ、多くの旅人が行き交っていた。
明治時代に鉄道が開通し、昭和になると東北最大の貨車操車場が設けられ交通の要衝として発展する。
その後、使われなくなった貨車操車場跡地で大規模な土地区画整理を行い「長町新都心」が誕生する。

- 平成7年 土地区画整理の都市計画が決定
- 平成11年 「太白区文化センター」や「太白図書館」などが入る複合施設「たいはつくる」が開業
- 平成19年 土地区画整理の街びらきを迎える
- 平成23年 スポーツや天体観測などイベントの会場としても使われる「杜の広場」が誕生
- 平成24年 プロバスケットボールチーム「仙台89ERS」のホームとなる「ゼビオアリーナ仙台」が誕生
- 平成26年 「仙台市立病院」が移転・開院、「IKEA仙台」がオープン
- 平成27年 「あすと長町中央公園」が開園



<施設概要>

用途：多目的アリーナ
最寄駅：JR長町駅・地下鉄長町駅
アリーナ部分床面積：約2,170㎡
アリーナ天井高さ：約20m
アリーナ床：土間コンクリート
総座席数：4,009席（1階可動席：1,232席、2階一般席：2,407席、3階一般席：266席、3階VIP席：104席）

コラム（スマート・スポーツシティとしてのまちづくりの事例）

フラット八戸（八戸市尻内町）

【事例のポイント】

◆スポーツインフラと連携した「育てる」まちづくり

国内有数の様々なアイススケート競技が可能な施設や幅広い分野のスポーツチームなどのスポーツインフラと連携し、将来世界で活躍するジュニアアスリートの育成システムや国内外からのスポーツ合宿受け入れ環境を整備し、スポーツを通じて人を「育てる」まちづくりを推進

◆官民連携の運営方法を取り入れた施設

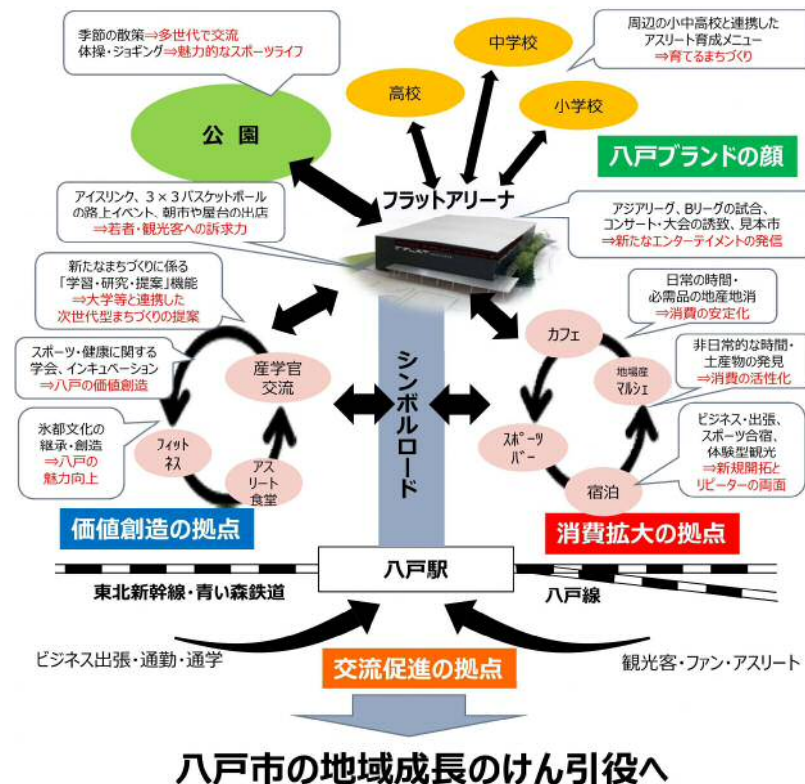
事業スキームは、市があらかじめ約8億円で購入していた区画整理事業の保留地を、ゼビオグループに無償で貸し付ける。建築と施設運営は同社が担う。完成後、市は2020年度から30年間にわたり年間1億円の利用料を支払うことにより、年2500時間の利用枠を得る。



出典：八戸駅西地区まちづくり計画、新・公民連携最前線HP、フラット八戸HP

「スマート・スポーツシティ」のイメージ

➤ スポーツと連携し、コンパクトなまちのなかで、多様なコンテンツが集約し日々更新される、スマートな“まち”

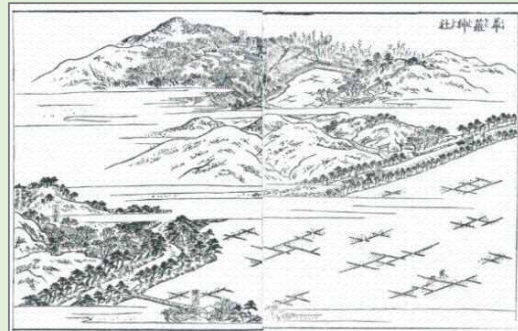


まちづくりの核となる「フラットアリーナ」

～スポーツ・エンターテインメントの新たな魅力を八戸から発信～


➤ 八戸駅西地区で新たに整備されるフラットアリーナは、氷都を象徴するアイスホッケーやフィギュアスケートに加え、バスケットボールなどの幅広いスポーツを「する」「観る」場として、また、八戸駅前立地を生かしこれまで誘致が困難であったコンサート、コンベンションなどの多様なイベントの開催の場として、さらには、地域行事、学校体育など、幅広い用途で活用

資4 東静岡・草薙地区の歴史（平安時代～江戸時代）

	東静岡	草薙
平安時代	◆東海道の整備 ※江戸時代に入り東海道が整備され、静岡と清水を結ぶ交通の東西軸が形成。	◆草薙神社の奉還 ※平安時代に、草薙神社本殿が現在の位置に奉還され、境内には樹齢1,000年以上といわれる楠の巨木があり、市の天然記念物となっている。
江戸時代		

東海道名所図会（草薙神社）





府中宿
東海道の19番目の宿場町。
東海道最大規模の宿場町として大いに賑わう。

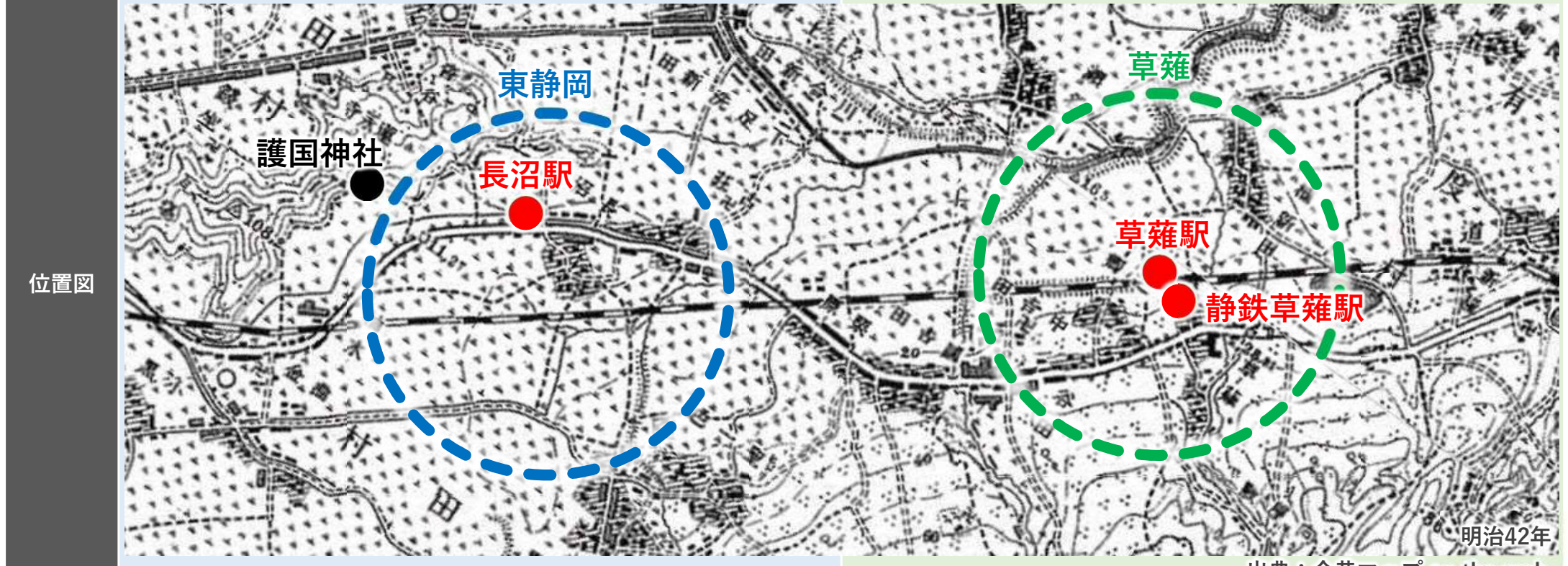
東静岡

江尻宿
東海道の18番目の宿場町。
江戸時代になると、清水港には、駿府町奉行が支配する蔵が立ち並び、江戸へ物資を運ぶ重要な港として栄える。

出典：しずおか東海道まちあるぎHP

資4 東静岡・草薙地区の歴史（大正時代～明治時代）

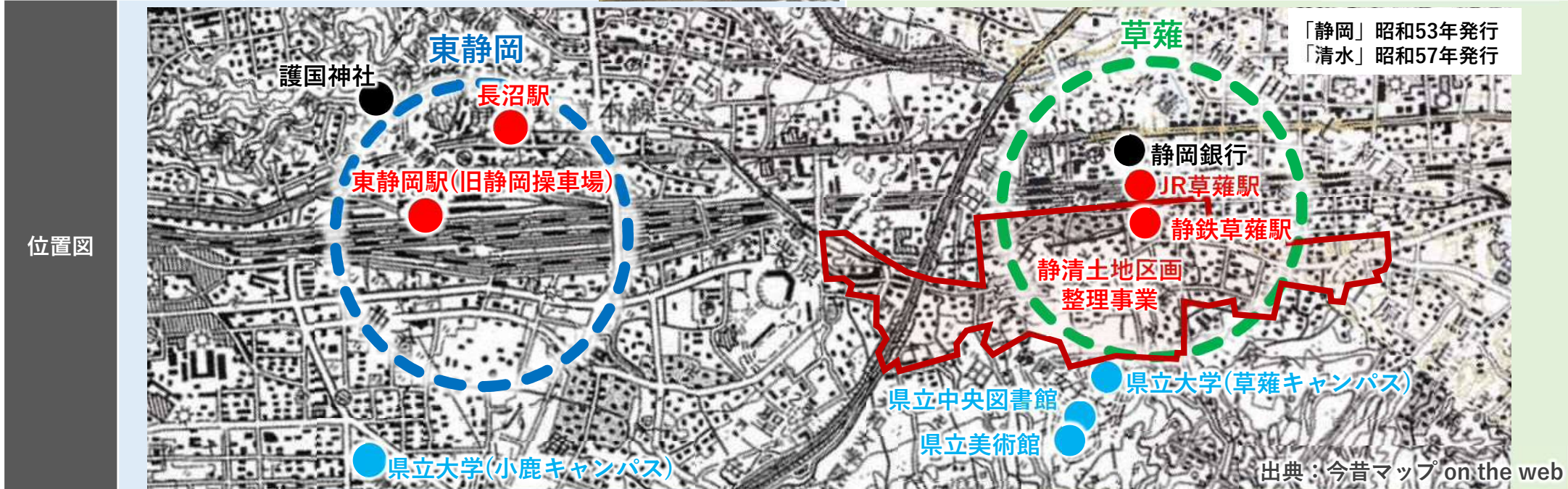
	東静岡		草薙	
明治時代	明治17年	静岡県護国神社が静岡市北番町より移転	明治41年	静岡鉄道草薙駅の開業
	明治41年	静岡鉄道長沼駅開業		
大正時代			大正15年	東海道本線草薙駅の開設 (草薙信号場が草薙駅に昇格)




出典：今昔マップ on the web

資4 東静岡・草薙地区の歴史（昭和）

東静岡		草薙	
昭和時代	昭和37年度 静岡操車場開設	昭和2年 日本平が「日本百景」に選定 ※昭和7年に県の名勝に指定され、 昭和26年に県立公園となる	 <p>昭和48年 区画整理中</p>
	昭和42年度 操車場を駅に格上げしJR東静岡駅として開業	昭和38年度 草薙駅（旧国鉄）南側で 静岡清土地区画整理事業が 実施される（平成5年度完了）	
	昭和62年度 静岡県立大学が開学 （小鹿キャンパス）	 <p>静岡県立大学（小鹿キャンパス）</p>	昭和40年度 静岡銀行本部が草薙に移転 昭和45年度 県立中央図書館が移転 昭和48年 草薙駅（旧国鉄）が建替完成 昭和61年度 県立美術館開館 昭和62年度 静岡県立大学が開学 （草薙キャンパス）

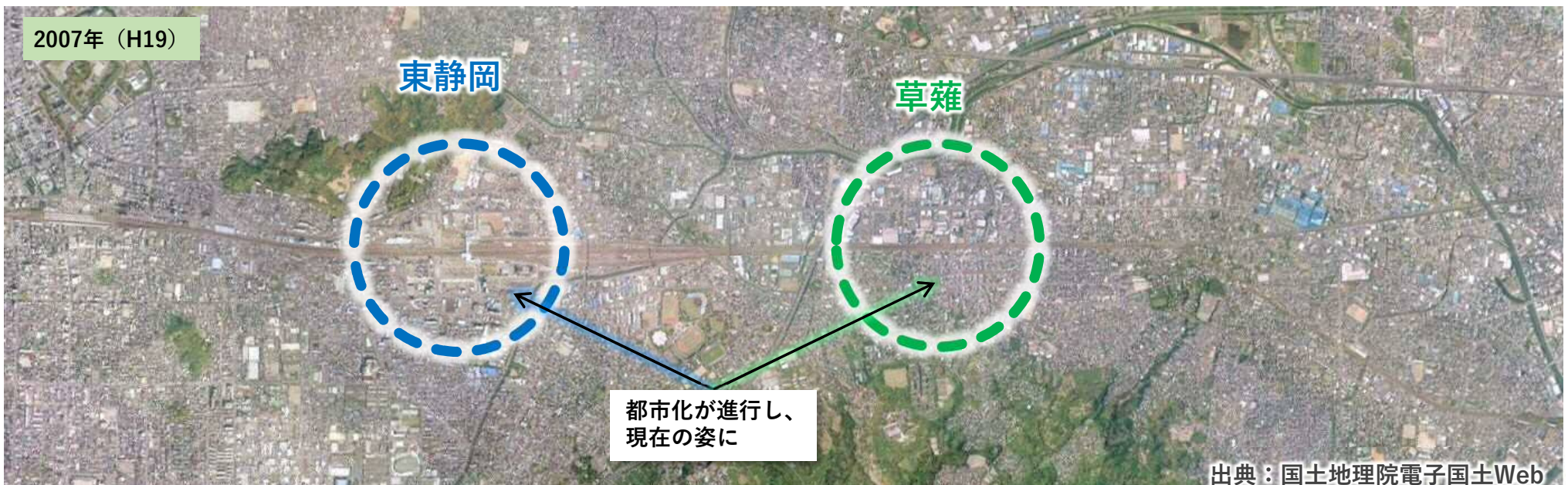
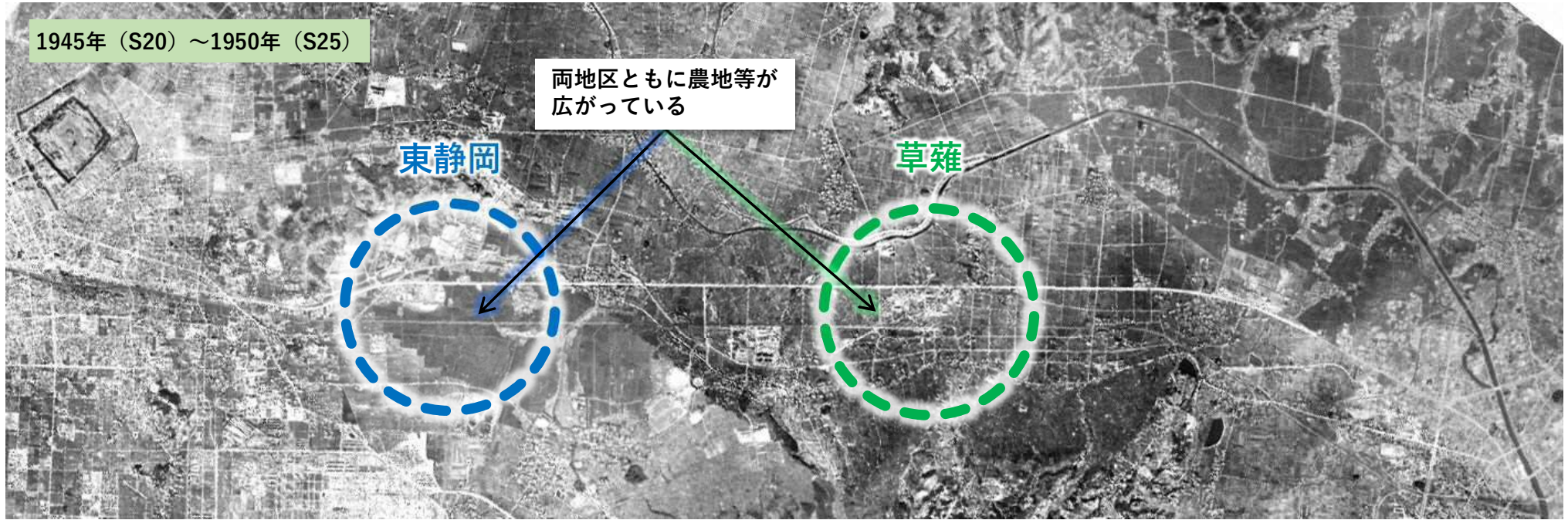


資4 東静岡・草薙地区の歴史（平成～令和）

	東静岡	草薙
平成時代	平成5年度 東静岡駅周辺土地地区画整理事業「事業計画」決定 平成10年度 JR東静岡駅・南北自由通路・南北駅前広場等完成 平成10年度 静岡県コンベンションアーツセンター(グランシップ)開館 平成17年度 バンダイホビーセンター移転 平成20年度 静岡県立科学技術高等学校開校	草薙駅及び南北自由通路の南口 
	平成25年度 東静岡南北線跨線橋（東静岡大橋）完成 平成25年度 急病センター・こころの健康センターの開所 平成25年度 MARK IS 静岡（マークイズしずおか）開業	平成27年度 草薙駅南口再開発ビル、静岡銀行本部棟オープン 平成28年度 JR草薙駅橋上駅舎及び南北自由通路開設
	平成29年度 東静岡アート&スポーツ／ヒロバ開設	平成30年度 常葉大学の一部学部を静岡草薙キャンパスに移転 草薙駅北口駅前広場が完成
令和時代	令和元年度 日本平久能山スマートIC開通	令和元年度 草薙駅南口駅前広場が完成



資4 東静岡・草薙地区の歴史（航空写真でみるまちの変化）



出典：国土地理院電子国土Web

Strength 強み

1) 全体

●文化・芸術・教育の集積

- ・「劇場のあるまち」というブランド価値
- ・若者と高齢者がともに学ぶ地域（静大・県大は正規授業を市民に公開）
- ・大学・専門学校が多くある事で若い世代が集まり、周辺の施設が活発になる。
- ・生活の中で触れる機会のある文化活動、消費、娯楽資源が比較的近くに立地
- ・大学、生涯学習関連施設[登呂博物館、県立美術館、ふじのくに地球環境史ミュージアム、久能山東照宮博物館、県立中央図書館]、グランシップ（静岡県コンベンションアーツセンター）、静岡県立大学、草薙球場など

●製造業の集積

- ・玩具や化粧品、電気機械器具、時計・同部品などの製造業が集積。

●良好な交通・アクセス

- ・JR・静岡鉄道・幹線道路等によって東西の連結が容易。
- ・土地が平坦で自転車（徒歩）移動がしやすい。
- ・日本平久能山IC開通や静岡駅から1～2駅で市外からアクセス良好。
- ・土地を広く有していることから多くの施設で開放駐車場を利用できる。

●都市としての魅力

- ・政令指定都市としての国におけるポジション
- ・古さと新しさの同居（古代東海道と新幹線・東名）

●静岡都心・清水都心との近接性

- ・点から線へ、線から面へ、静岡の文化を発信する際のキーエリアとなりうる

●富士山などの自然資源・景観

- ・年間を通じ温暖で過ごしやすい気候
- ・富士山の眺望、日本平など、他にはない景観と自然環境

●新たなコミュニティの存在

- ・新住民が多く「これから自分たちの街を作る」という意識

2) 東静岡

- ・拡大傾向の「定住人口」
- ・ゆとりがありデザインしやすい町並み

3) 草薙

- ・拡大傾向の「関係人口」
- ・アーバンデザインセンターへの加入（UDC草薙）
- ・地元住民、商店会が中心になった『草薙カルテッド』による活動

Weakness 弱み

1) 全体

●都市・施設の連携や一体感の不足

- ・鉄道・道路で分断させ、南北の一体感が希薄
- ・東静岡と草薙との連携の弱さ
- ・文化施設同士の一体感の希薄
- ・大学が近くにある割に、大学との協働事業等が行われていない。

●都市の魅力不足

- ・小規模商店・カフェが少なく、街歩きの楽しみが見出しにくい。若者が多いが、お金を落とす魅力的な場所が少ない。
- ・高層マンション群のデザイン、グリーンの不足
- ・点在する倉庫群が今後「地域の面白み」として生かされていく期待感がない。
- ・未利用地が存在（今後の可能性にもつながる）
- ・多くの人が働くような工場などが少ない。

●道路の交通渋滞

- ・南北をつなぐ道路が少ない、渋滞の原因にも。
- ・国道1号線や南幹線の交通渋滞
- ・南北の連結が弱い

●コミュニティの関係が分散

- ・思いのある市民・団体がコミュニケーションをとる場が不足
- ・世代間交流の希薄化（新旧住民、新しい文化と昔ながらの文化）
- ・相対的に子育て世代が多いため、時間に余裕のある住民がさほど多くない。

●景観の魅力不足

- ・富士山が見えない日の景観に魅力が乏しい。

2) 東静岡

- ・県と市との連携が弱く見える
- ・未利用地が多い
- ・住民主体のまちづくり活動が見られない。
- ・マンションの住民へ、地域の魅力が伝えられているか

3) 草薙

- ・ローカルな動きに留まり経済活動が弱い
- ・駅から離れた場所の交通の便
- ・草薙カルテッド専任人材の不足
- ・学生を除くと昼夜間人口比率低いのでは

Opportunity 機会

1) 全体

●大学・学生

- ・ 学生の地元志向が向上、都心部からの優秀な人材の転入
- ・ 静岡大学の改革・令和4年4月の「静岡地区大学」学生受入れ開始
- ・ 静岡大学、県立大学、常葉大学などの高等教育機関が集積し、学生の知的・文化的刺激への渴望に応える店舗が成り立つようになる。
- ・ 若年人口が多い上に大学生が集まることで、先端的なショップが生まれ、そこに東海道の歴史・徳川の歴史が掛け合わせられることで、「新旧のコントラスト」という海外からの訪問者が最も惹かれる日本の美点が表現される。
- ・ 高等教育機関の集積による、総合的学術・研究情報発信拠点形成の可能性
- ・ 文化・芸術・教育機関の集積による静岡リカレント教育・生涯学習の拠点形成

●ウィズコロナ・アフターコロナ

- ・ コロナによる東京一極集中の解消傾向、コロナによりこれまでの常識が通じなくなる(古い習慣から新しい常識へ)
- ・ テレワーク・在宅勤務の一層の普及

●スマートIC周辺の産業集積

- ・ 日本平久能山スマートIC周辺の産業集積

●その他

- ・ 地方創生プランの実施フェーズ突入
- ・ 「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」
- ・ グランドデザイン作成による注目

2) 東静岡

- ・ 東静岡駅南口の新県立中央図書館整備事業(グランシップ(静岡県コンベンションアーツセンター)との相乗効果と北口との連結に大いに期待)
- ・ グランシップ(静岡県コンベンションアーツセンター)、ツインメッセによる大規模イベントの開催
- ・ これから活用する広い土地
- ・ 区画整理が進み駅前にはマンションが、周辺には戸建住宅が増え、人口増

3) 草薙

- ・ 常葉大学草薙キャンパスの誕生
- ・ 学生の地域の中の居場所の創出
- ・ 草薙駅前再開発の進行、北口ロータリーの芝生広場、南口ロータリーのイベント広場の活用
- ・ スポーツ施設が多く、各種大会で人が集まる(草薙運動競技場・体育館など)
- ・ 日本平夢テラスの誕生

Threat 脅威

1) 全体

●人口構成・コミュニティの変化

- ・ 少子高齢化
- ・ 人口構成の変化による住民相互の交流機会の減少
- ・ 新規住民の孤立化と独居高齢者の増加に伴う、地域コミュニティの崩壊
- ・ 保守的な市民性
- ・ 新規流入者、平日不在者が多いことで、災害時の互助への不安

●静岡都心・清水都心との関係

- ・ 静岡都心・清水都心と近接しているがあるが故に、同じショップや似たような施設があると、東静岡・草薙エリアにわざわざ足を運ばなくてもよくなってしまふ。
- ・ 静岡駅近辺や清水駅近辺の中心市街地が空洞化すると、静岡市自体の魅力が減じて、市からの意欲的な若者の流出につながる。

●新たな感染症の脅威

- ・ コロナによる市民の消極的な感情
- ・ コロナ対策による(行政はじめ各団体)予算の枯渇
- ・ コロナ禍による各種業界の衰退

●都市のデザイン

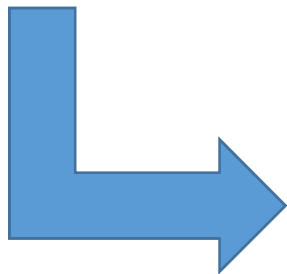
- ・ 都市デザインがないままマンション林立が続くと、富士山の眺望も失われ、時間軸を感じさせる古い倉庫なども消えて、殺伐とした駅前街区となってしまう。

●その他

- ・ 交通/物流の変化による渋滞
- ・ 東海短大の2020年度以降の学生募集停止

SWOTクロス分析

		S:強み プラス 内部要因 (現状)	W:弱み マイナス 内部要因 (現状)
O 機会 プラス 外部要因 (現状+将来)	S×O (プラス×プラス) ★強みがさらに活きる機会として捉え、長所を強化する積極的な方針として示す	W×O (マイナス×プラス) ★弱みを克服する機会として捉え、弱みを強みに転換する方針として示す	
T 脅威 マイナス 外部要因 (現状+将来)	S×T (プラス×マイナス) ★強みを活かし脅威を克服する成いは強みを維持するための方針として示す	W×T (マイナス×マイナス) ★負の影響を如何に最小とするか或いは効果的に見取るなどの方針として示す	



強み (S) × 機会 (O) 強みと機会を最大限に活用する	強み (S) × 脅威 (T) 強みを活かして脅威を克服する	弱み (W) × 機会 (O) 弱みの影響で機会を逃さない	弱み (W) × 脅威 (T) 弱みと脅威が重なったときに、危機を回避する
<ul style="list-style-type: none"> ▶ ウィズコロナ・アフターコロナを機会として、静岡都心・清水都心との近接性の強みを活かし、多様な働き方（テレワークなど）を実現していく。 ▶ 新県立中央図書館整備を機会として、文化・芸術・教育機関の集積の強みを活かした、大学と企業、行政との連携体制の構築とまちづくりへの展開を図る。 ▶ 学生の地元志向や大学生の集積を機会として、定住人口が増加している強みを活かし、子育て環境など若い世代に対応した生活利便性や安心・安全な生活環境の確保を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 少子高齢化や地域コミュニティの崩壊などの脅威に対して、教育機関の集積を活かした生涯学習などの機会を通じて、少子高齢化に伴う地域課題の解決や、若者と高齢者、外国人の交流機会を提供する。 ▶ コミュニティの変化などの脅威に対して、草薺カルテッドの活動やアーバンデザインセンターへの加入などの取組実績の強みを活かし、課題解決型へのコミュニティづくりを進める。 ▶ 静岡都心・清水都心との関係性（存在感の希薄化など）において、東静岡・草薺地区での文化・教育や自然資源の集積の強みをアピールすることにより差別化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 鉄道による南北の分断や低未利用地が多い（東静岡）という弱みに対して、東静岡駅南側での新県立中央図書館整備を機会と捉え、駅北側市有地の活用と連携した駅南北の一体的なまちづくりを推進していく。 ▶ 都市の魅力不足という弱みに対して、新技術や大学の有する研究成果のまちづくりへの活用や、芸術・文化などの創造性を活かすことで、他の地域にはない魅力を創造する。 ▶ 大学生が地域に集まる機会を有するものの、都市の魅力不足という弱みにより、地域経済への波及が乏しいことから、魅力と賑わいのある都市空間の形成や商業機能の集積を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 静岡都心・清水都心との関係性により存在感の希薄化、空洞化などを脅威を避けるため、「教育文化の拠点」として、市域全体をけん引するまちづくりを進める。 ▶ 低未利用地が多く（弱み）、マンションの林立（脅威）が進む東静岡駅周辺においては、街並み景観などの都市の魅力を高める一体的なまちづくりを進める。 ▶ 弱みであり、脅威でもあるコミュニティの希薄化に対して、多世代・多文化間などのコミュニティの関係強化を図る。

資6 ポストコロナ時代におけるまちづくり

ポストコロナの検討について（令和2年9月 静岡市企画課）

ポストコロナは「新たな働き方・暮らし方」の時代

- ① コロナ禍で強制的に起こった壮大な社会実験のあと、柔軟な働き方・暮らし方ができるという気づきを得た。
- ② DXをツールに、リアルとオンラインを適切に組み合わせ、政策展開をしていくことが必要。
- ③ ポストコロナ社会では、新しい取組が展開されるよりも、東京一極集中からの分散化、DXを中心とした社会の効率化など、これまでの変化が大きく加速する。
- ④ 柔軟にどこでも働ける・暮らせる中で、未来市民に訴求し選ばれる静岡市になるためには、静岡市の特性を活かした付加価値が重要で、これまで取り組んできたSDGsや余暇を充実させるライフスタイルの提案が重要。
- ⑤ 同時に、新たな感染症に対するレジリエンス（しなやかな強さ）が重要で、感染に耐えられる都市空間や医療体制などの環境整備や、感染症の影響を受けつつも、いかに経済活動を維持させていくかが重要。

DX（デジタルトランスフォーメーション）：企業がビジネス環境の激しい変化に対応し、データとデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズを基に、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや、組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位性を確立すること

新たな感染症への対応

加速する変化への対応

ポストコロナにおける取組の柱（静岡市）

日常生活の継続

- 感染症に対する医療・検査・予防体制の充実
- 中心市街地の機能再編
- 公共空間の新たな利活用 など

経済活動の維持

- 宿泊施設や飲食業の需要喚起
- マイクロツーリズムへの対応
- 地元食材の流通 など

社会の効率化（DXなど）

- ICT教育の推進
- 地域交通体系の変革（MaaS・自転車など）
- 行政の効率化
- 地域産業のIT化に向けた支援 など

分散化社会

- テレワークの推進
- 首都圏からの移住・企業移転の推進
- 圏域経済の活性化 など

※ 東京からの分散化であって、静岡市域の分散化ではない。

2つのLife

優先的に進めるべき取組

資6 ポストコロナ時代におけるまちづくり

新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性（令和2年8月 国土交通省都市局資料を抜粋）

人や機能等を集積させる都市そのものの重要性に変わりはなく、国際競争力強化やウォーカブルなまちづくり、コンパクトシティ、スマートシティの推進は引き続き重要。こうした都市政策の推進に当たっては、新型コロナ危機を契機として生じた変化に対応していくことが必要。

- 大都市は、クリエイティブ人材を惹きつける良質なオフィス、住環境（住宅、オープンスペース、インターナショナルスクール等）、文化・エンタメ機能等を、郊外、地方都市は、住む、働く、憩いといった様々な機能を備えた「地元生活圏の形成」を推進
- 大都市、郊外、地方都市それぞれのメリットを活かして魅力を高めていくことが重要
- 様々なニーズ、変化、リスクに対応できる柔軟性・冗長性を備えた都市が求められる
- 老朽ストックを更新し、ニューノーマルに対応した機能（住宅、サテライトオフィス等）が提供されるリニューアルを促進
- 郊外や地方都市でも必要な公共交通サービスが提供されるよう、まちづくりと一体となった総合的な交通戦略を推進
- 自転車を利用しやすい環境の一層の整備が必要
- 街路空間、公園、緑地、都市農地、民間空地などまちに存在する様々な緑やオープンスペースを柔軟に活用
- リアルタイムデータ等を活用し、ミクロな空間単位で人の動きを把握して、平時・災害時ともに過密を避けるよう人の行動を誘導
- 避難所の過密を避けるための多様な避難環境の整備



良質なオフィス、テレワーク環境の整備



居心地の良いウォーカブルな空間の創出



都市空間へのゆとり（オープンスペース）の創出

資7 2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略

日本は、2020年10月、第203回臨時国会 菅内閣総理大臣の所信表明演説において、2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言。
そのロードマップとして、経済と環境の好循環を作っていく産業政策 = **グリーン成長戦略**を打ち出した。

<グリーン成長戦略>

○電力部門（脱炭素化を前提）

- 洋上風力・蓄電池産業を成長分野に育成
- 水素産業の創出
- カーボンリサイクル・燃料アンモニア産業の創出
- 原子力は可能な限り依存度を低減しつつ、引き続き最大限活用、安全性に優れた次世代炉の開発

○電力部門以外

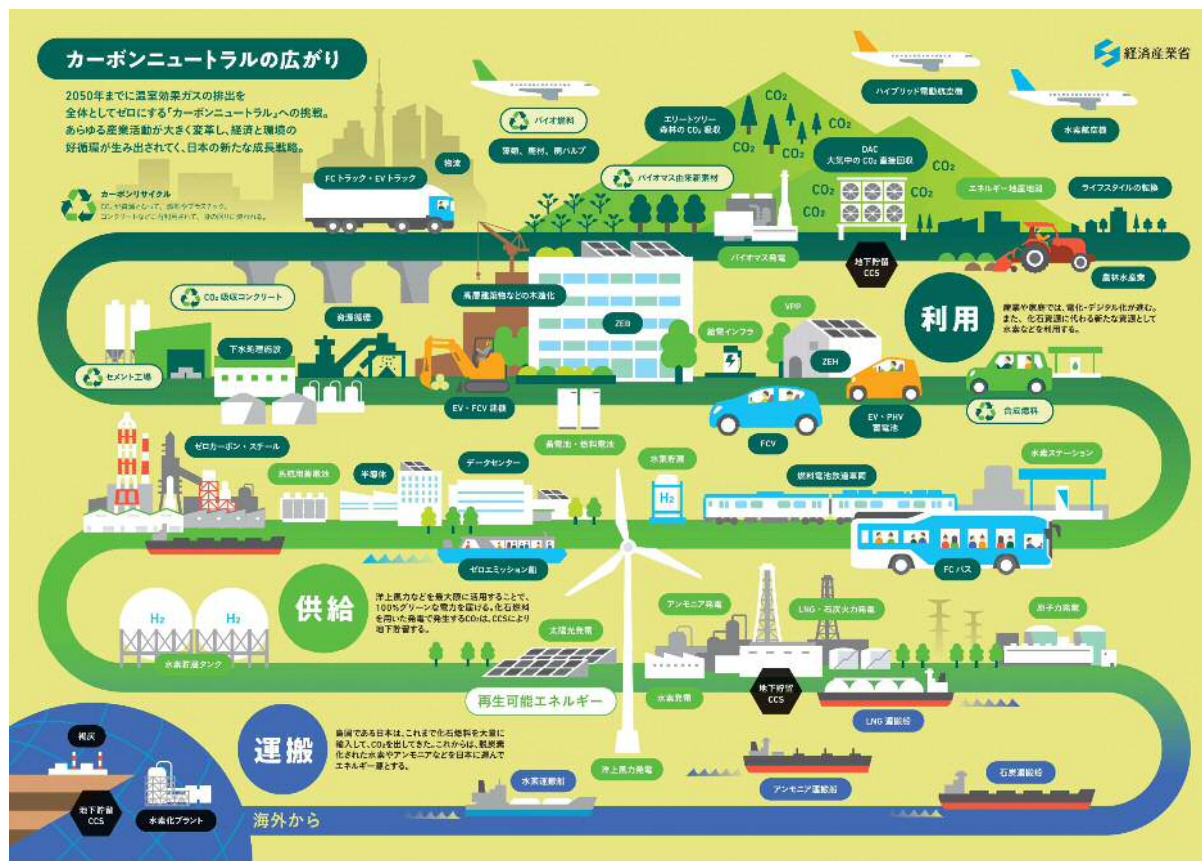
- 水素産業、自動車・蓄電池産業、運輸関連産業、住宅・建築物関連産業を成長分野として育成

+

○電力ネットワークのデジタル制御

- 半導体・情報通信産業を成長分野として育成

- 革新的技術の確立に加え、社会実装、量産投資によるコスト低減を推進



出典：経済産業省HP